プレイステーションTM 必勝法スペシャル
PlayStation TM
ムーンライトシンドローム
Moonlight Syndrome
月光症候群
10のエピソードを完全紹介。
月の満ち欠けとともに
消えては浮かぶ謎の数々……。
そして、本編では語られなかった
もう1つのエピソードがここに……。
月の
悲しみが
溢れる とき
……
HUMAN ENTERTAINMENT
HUMAN

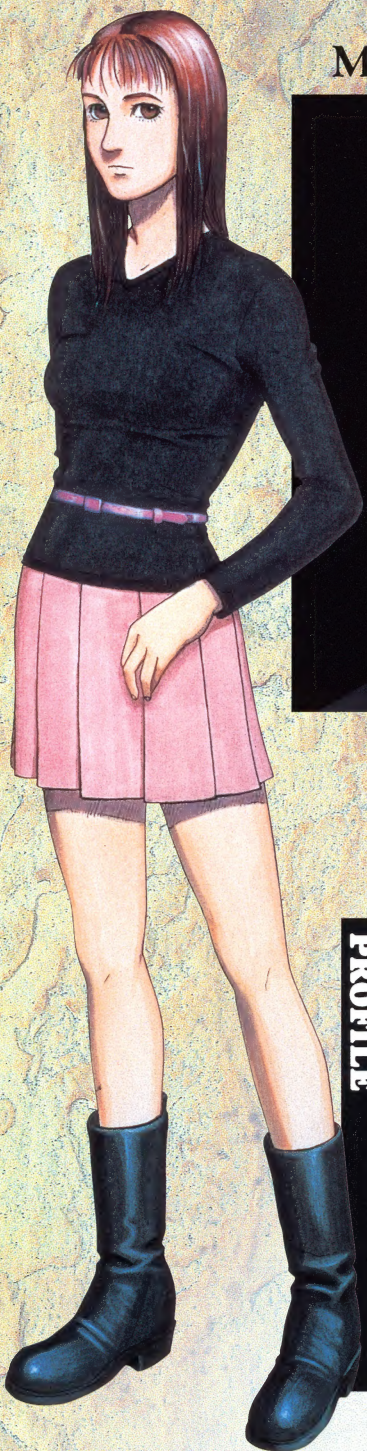
ムーンライトシンドローム
Moonlight Syndrome
月光症候群

10のエピソードを完全紹介。
月の満ち欠けとともに
消えては浮かぶ謎の数々……。
そして、本編では語られなかった
もう1つのエピソードがここに……。

月の悲しみが溢れるとき・・・・・・

HUMAN ENTERTAINMENT
HUMAN

CONTENTS

Mika Kishii

少女から女性へ変幻途中

岸井 ミカ

PROFILE

この物語の主人公。雛代高校に通う２年生だ。いわゆる「コギャル」の典型とも言える女子高生である。常に明るく好奇心旺盛。そのため、様々な事件に巻き込まれることもしばしば。１年先輩の長谷川ユカリ、逸島チサトとは仲が良く、行動を共にすることが多い。

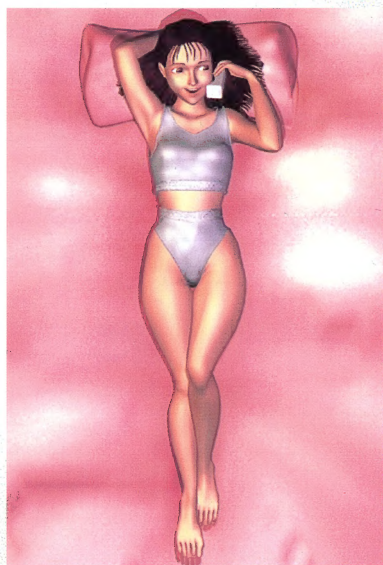
だが、先輩たちが受験ということで最近はミカも気を遣っている。

Mika Kishii

CURIOSITY 好奇心

ニュースを入手すると、首を突っ込みたがるのがミカの特徴。それに付き合うハメになるのは、必ずユカリとチサトである。この3人で行動すると、事件はなぜか奇妙な方向に発展する。

DESTINY 宿命

ミカと瓜ふたつで校内でも騒がれた、華山キョウコ。すでに卒業していたが、突然の事故死はミカにも衝撃を与える。しかし、このふたりは同じ顔を持っているというだけの運命ではなかった。

PRIVATE プライベート

交遊関係は非常に広く、いたるところに知り合いがいる。冬葉ルミの兄、スミオとはごく普通の男女の関係であった。

いわゆるコギャルファッション。制服のスカートは短く、当然ルーズソックス。私服もミニスカートを好むらしい。脚には自信アリか？

Ryo Kazan

ミカの対極に位置する存在……

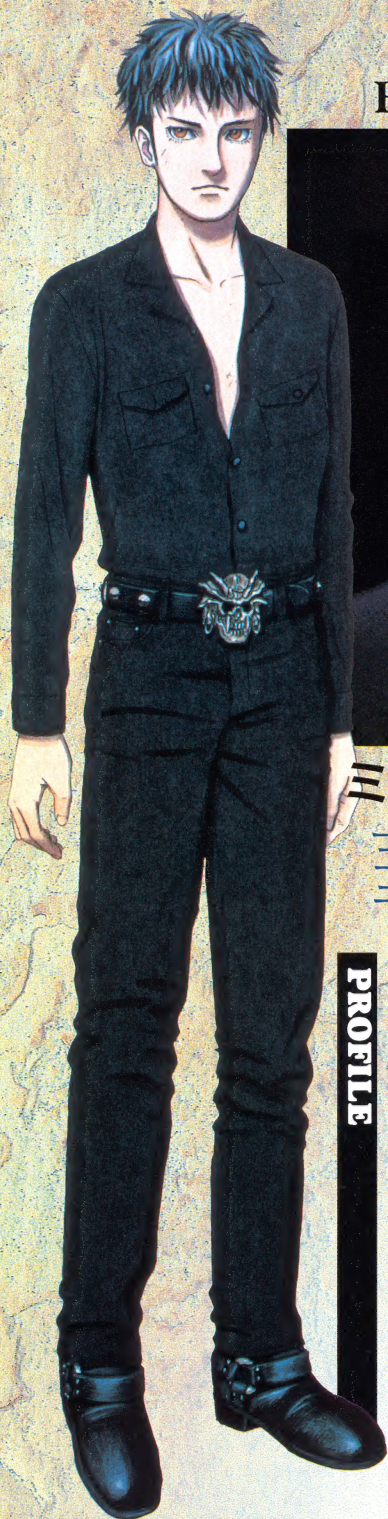
華山　リョウ

PROFILE

高校を中退。その後も目的を見出せず、くすぶって生きてきた。現代のアウトサイダーの象徴である。

姉キョウコは冬葉スミオと、そしてリョウはスミオの妹ルミと付き合うが、違和感を拭いきれずにいた。

だが、突然の事故で最愛の姉キョウコを亡くし、姉と瓜ふたつの岸井ミカと出会ったときから、事態は急変する……。

Ryo Kazan

KYOKO 最愛の姉

唯一リョウの理解者であった姉キョウコ。その関係は姉弟関係を越えるものがあったと言える。だが、キョウコの死によって、姉の姿をミカに投影。惹かれていくのは必然であった。

YAYOI 謎の接近

クラブ「LOST HIGHWAY」でリョウに接近してくる謎の女、逸島ヤヨイ。だが、姉の姿を追うリョウには、ヤヨイの存在を受け入れることはできなかった。

MIKA 守るべき者?

リョウと、キョウコと同じ顔を持つ岸井ミカ。物語の最初、このふたりを結び付けるものは何もない。キョウコの死、謎の少年、そして運命の巡り合わせがふたりを近づけていく。そしてリョウは少年と契約を結ぶ……。(P92からのエピソード陰約を参照)

私服

ミカに「ダサイ」と酷評されるリョウのファッション。全体的に黒系が多い。

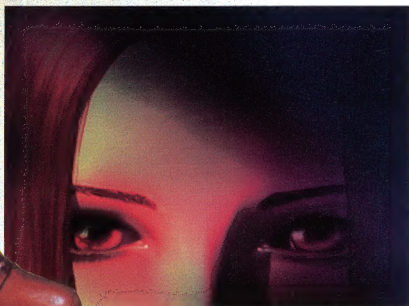
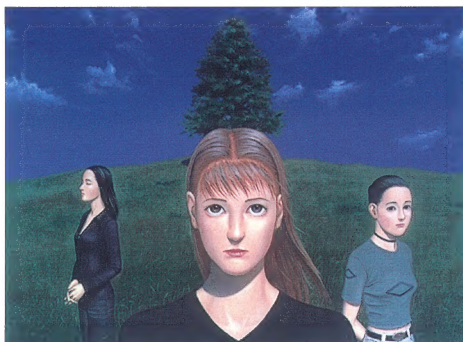
Yukari Hasegawa

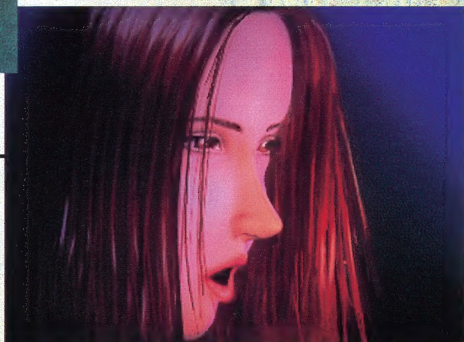
落ち着きある、ミカ憧れの先輩

長谷川ユカリ

PROFILE

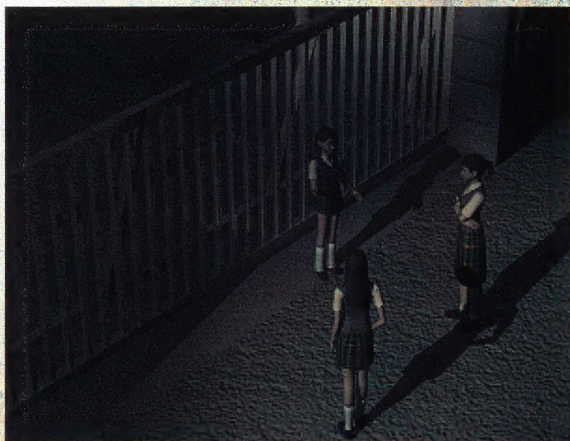
雛代高校の３年生。逸島チサトとは親友同士。ミカ、チサトらと行動すると、彼女の役割はリーダー。現代的なことを否定するその雰囲気からか、学校の中では孤立した存在だ。

ひとつ年下のミカからは「センパイ」と慕われており、ユカリの方も口とは裏腹に結構、面倒見がよい。

FATE　ミカ&チサト

親友のチサト、そしてなぜか慕ってくるミカと行動を共にすることが多い。
最近はチサトの後輩アリサもこれに加わり、その物おじしない性格には辟易させられている。

AGGRESSIVE　強気

クールな雰囲気をかもし出すユカリだが、その性格は意外と強気。思ったことをズバズバ言うタイプだ。
だが、霊的なものを極端に恐がる一面も持っている。

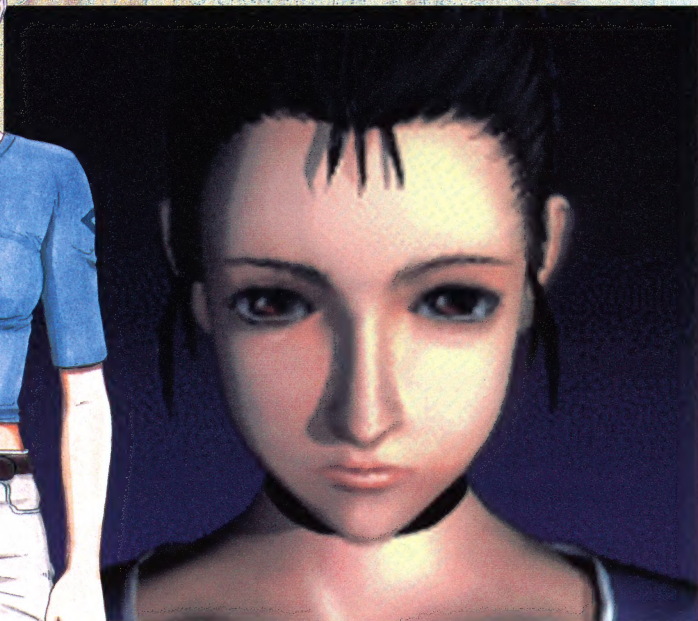
私服

ツーピースがよく似合うユカリ。全体的に大人っぽいファッションを好むらしい。

FRIENDS&LOVER

仲間と恋人の間で……

ユカリの恋人は高校教師の北村カズヤ。彼との絆が一層深まり、温もりのある女性へと変貌を遂げようとしている。しかし、恋人との関係が深まるにつれ、チサトやミカとは距離を置きつつあった……。

Yukari Hasegawa

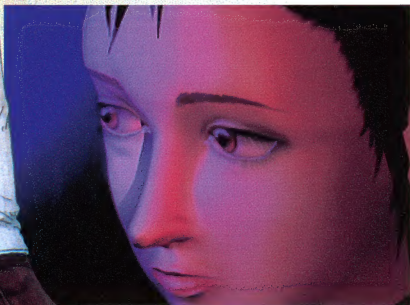
Chisato Itsushima

強い霊感を持つ心優しい女性

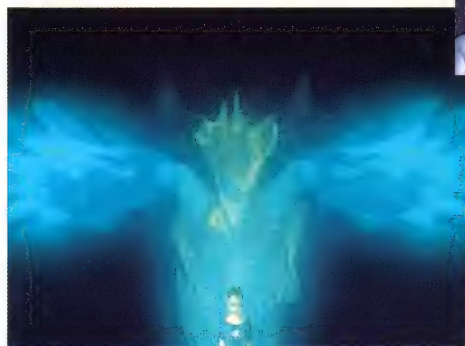
逸島 チサト

PROFILE

雛代高校に通う3年生。ユカリとは無二の親友。つねに冷静沈着で心優しい性格だ。いつもユカリを支え、ミカを温かく包み込み、ふたりにとっては母親的な存在だといえるだろう。

また、彼女には強い霊感があり、これまでも幾度となくユカリたちのピンチを救ってきた。

Chisato Itsushima

SISTER 妹

同じ「逸島」の姓を持つヤヨイ。彼女はチサトの妹と名乗っているが真相は不明だ。しかし、このふたりがただの姉妹とは思えない。何やら因縁めいた確執があるようだ……。

POWER 特殊な力

チサトが持つ強い霊感。だが、実際には霊感などという生易しいものではない。なぜ、彼女がこのような強大な力を持っているのかはわからないが、到底、人間のものとは思えない……。

TRUE CHARACTER 正体

姉妹の持つ特殊な力。少年とお互いに知り合いであるという事実。チサトは少年に対抗しうる唯一の存在、同類の何かなのではないだろうか……?

団地の屋上でリルだけが見た、チサトとダブる少女。あれこそがチサトの本当の姿なのかもしれない。

私服

短めのTシャツでヘソ出しルックのチサト。全体的にラフなスタイルだ。

Arisa Kahara

オトボケぶりが魅力の超能力者

鹿原　アリサ

PROFILE

雛代高校の１年生。チサトとは弓道部の先輩、後輩の間柄。ミカとは友人である。明るくほがらかな性格で、少しボケている。恐ろしいほどマイペースで、周りの人間をやきもきさせることもしばしば……。

だが、そのオトボケぶりは、不思議なやすらぎを与えてくれる。

また、アリサもチサト同様、特殊な力を持っている。

Arisa Kahara

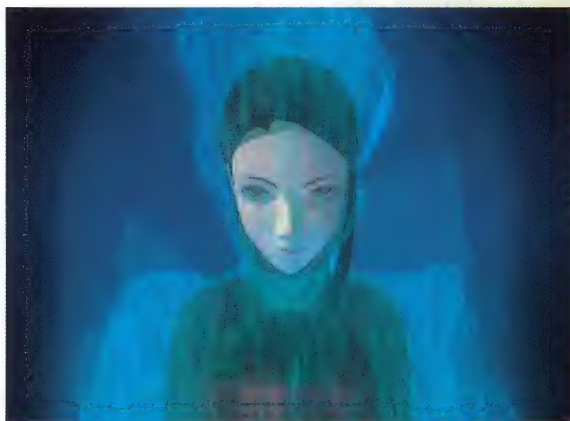
GENERATION 世代

ルーズソックスを履いているが、コギャル世代と同じに見られるのを嫌がる。ときには流行に流されているミカを注意する一面も見せる。

だが、アリサ自身はかなりミーハー。ドラマなどＴＶ番組にも詳しい。

TONE 口調

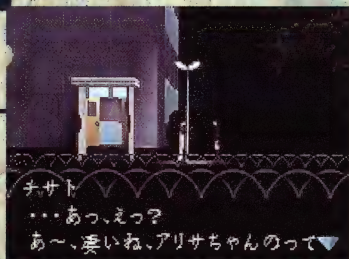
アリサの口調は周りの人間を独特のペースに引きずり込む。ユカリいわく、「……アリサって感じ」。

それでいて、自分の考えはしっかり持っている。そのアンバランスさには、ミカもしばしばあ然とさせられる。

ESPER 超能力者

チサトと同じく、特殊な力を持っているのがアリサの特徴。それは、霊感というよりも、むしろ超能力に近い。

ユカリを悪霊から助けたり、ミカの居場所がわかったりといろいろ便利。チサトも驚くほどのパワーの持ち主なのだ。

LATENT ABILITY 潜在能力

おそらくチサトは、知り合う前からアリサの力に感づいていたはず。そのふたりが知り合い、ユカリやミカを助けることになるのは、ただの偶然だとは思えないのだが……。

Sumio Tohba

Sumio Tohba

謎多きプレイボーイの末路

冬葉 スミオ

PROFILE

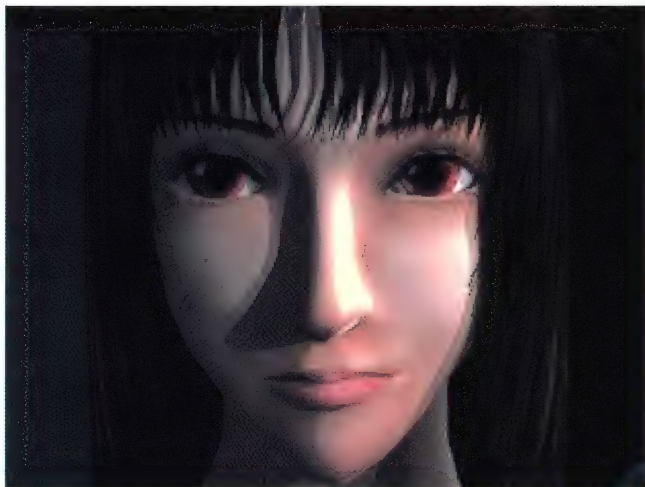
19歳の大学生。冬葉ルミの兄でキョウコの恋人。だが、キョウコの死後、あとを追うようにクラブで壮絶な死を遂げた。

ミカ、ヤヨイ、キミカらとも関係を持っていたスミオ。これらの女性は「サンプル」だと彼は言っている。

MYSTERIOUS 謎

キミカの無理心中で命を落としたスミオ。しかし、燃えさかる炎の中で、彼は笑みすら浮かべて死んでゆく……。

謎だらけの死。今回巻き起こる出来事に何らかの関係があるのだろうか。

Kyoko Kazan

壮絶死を遂げた、リョウ最愛の姉

華山 キョウコ

PROFILE

リョウ最愛の姉であり、唯一の理解者。そしてスミオの恋人でもあった。だが、峠の事故で命を落とす。

キョウコとミカは高校時代、瓜ふたつということで話題になる。キョウコの死後、ミカの周りで起こる事件と何か関係があるのだろうか？

DEATH 死

リョウとの禁断の愛。そして、それを断ち切るかのようなスミオとの関係。このふたりの間で板挟みとなり、苦悩するキョウコ。その苦痛から逃れるには、死という手段しかなかったのか!?

Kyoko Kazan

Kimika Takahashi

高橋 キミカ

リョウが高校を退学する前の同級生。スミオと関係したが、一方的に捨てられてしまう。そのことからスミオとの無理心中を決意する。

Principal

雛代高校 校長

温厚そうな風貌で生徒の受けもよい。この校長が雛代高校に来てから、偏差値も大幅にアップした。生徒全員の名前と顔を覚えているらしい。

Kazuki Aihara

相原カヅキ

ミカのクラスメイトで仲が良い。ミカが行方不明になったときには、ユカリと共に懸命に探してくれる。そんなカヅキの身にも……！

Miho Katsuragi

桂木　ミホ

ミカのクラスメイト。喧嘩もするが、基本的にはミカと仲が良い。かなり勝ち気な性格で、言葉使いも乱暴。教師を殴って停学をくらうことも。

Miki Kohsaka

香坂　ミキ

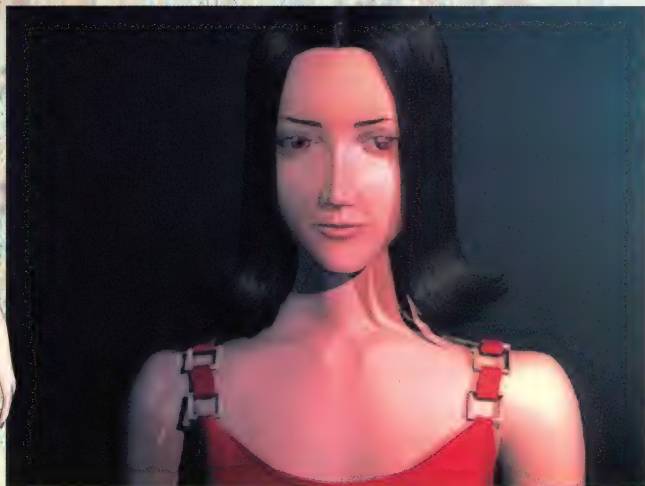
ミカのクラスメイト。とくにミホと仲が良いようだ。
旧体育館の取り壊し工事中に、ある事故に巻き込まれてしまう。

Miyuki Yoshida

吉田ミユキ

ミカと同じ雛代高校の２年生。天体観測部に所属している。夜まで天文台にこもり、静かに観測にいそしんでいる。ミカとは顔見知り程度の関係。

Rumi Tohba

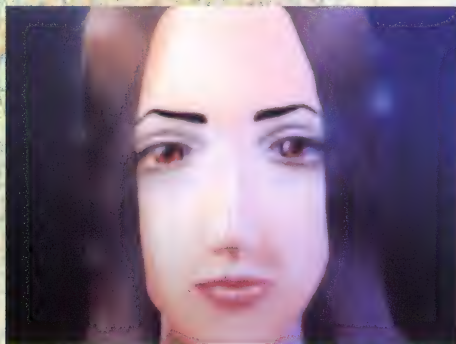
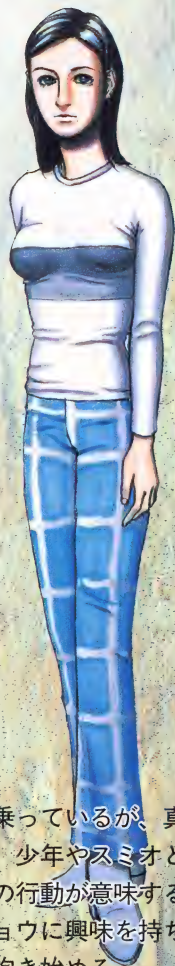
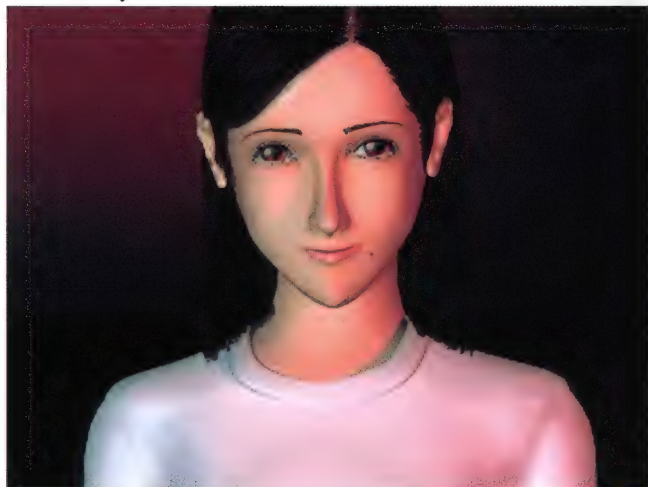
Rumi Tohba

亡き兄への愛をリョウに重ね…

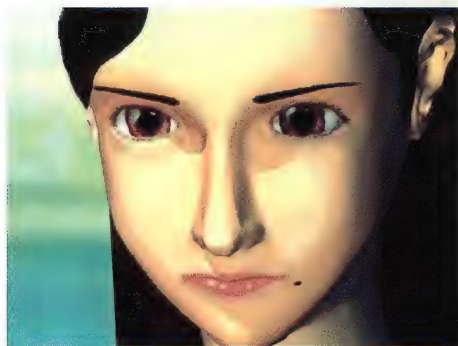
冬葉 ルミ

PROFILE

雛代高校の２年生でミカのクラスメイト。ミカだけでなく、アリサも一緒に買い物に出かけるような間柄。実はルミはスミオを兄以上の存在として見ており、幼なじみのリョウの境遇ととても似ている。スミオの死後はリョウに兄の姿を重ねている。

TRUTH 真実の愛

スミオの真意は定かではないが、ルミを単なる妹以上に見ていたのは確かなようだ。スミオの死以降、リョウに乗り換えたように見えるが、その心はやはり兄スミオを想っている。

Yayoi Itsushima

すべてを知り、ただ傍観する

逸島　ヤヨイ

PROFILE

チサトの妹と名乗っているが、真相は定かではない。少年やスミオとも接点があり、その行動が意味するところも不明。リョウに興味を持ち、愛と呼べる感情を抱き始める。
また、チサトと同等の特殊な力を持ち、なぜか対立関係にあるようだ。

PART 役割

スミオの手下のように動いているかと思えば、スミオの死後は少年の側にいたりする。とにかくその行動は謎が多い。だが物語の後半に近づくにつれ、リョウに肩入れしていくのがわかる。

Yayoi Itsushima

Misterious Boy Mithra

Mithra

すべてを創り、すべてを破壊する

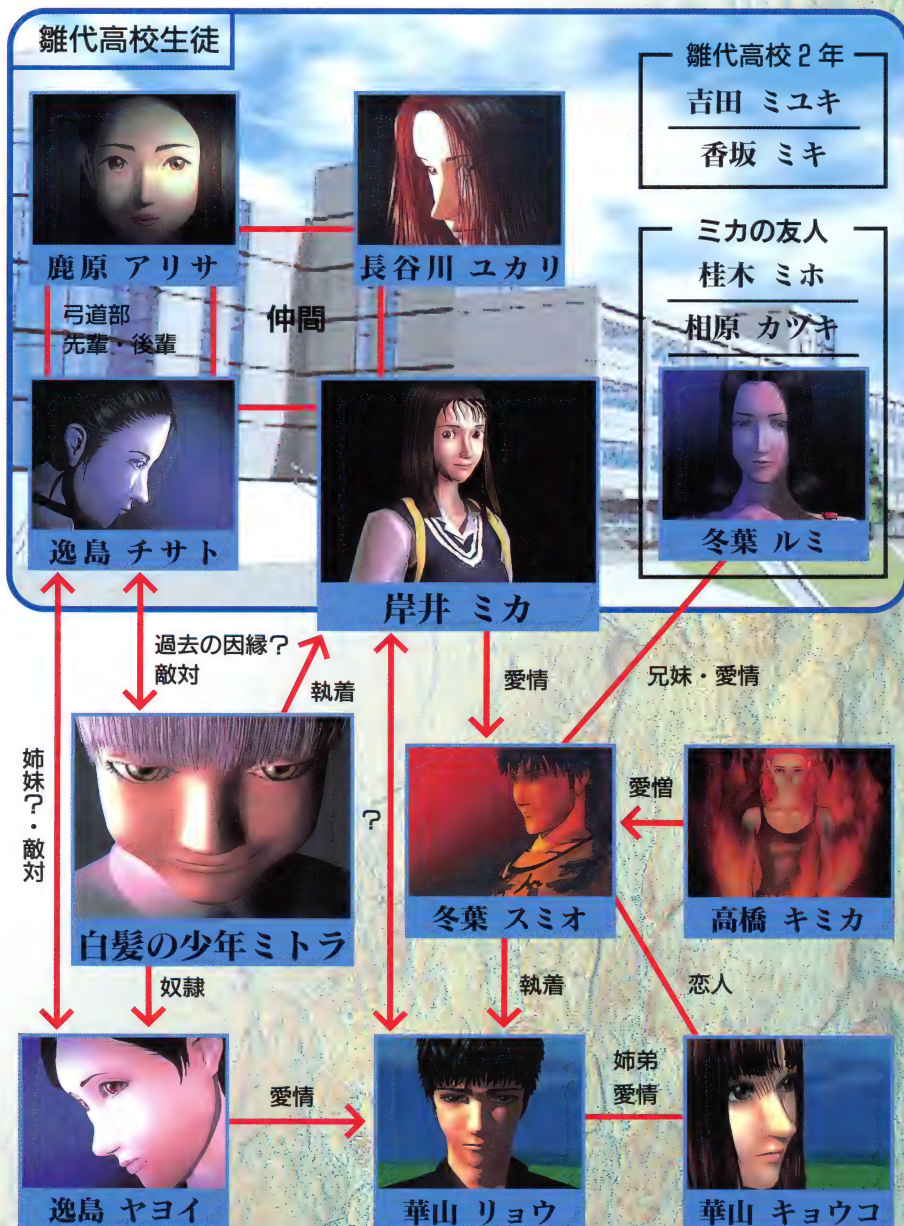
白髪の少年 ミトラ

PROFILE

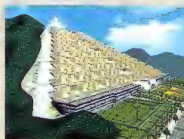
ミカやリョウに接近する謎の少年。白髪、碧眼を除けば、普通の少年と変わらない。だが、その正体は契約の神（天使）ミトラ。魔性が進行するこの雛代に、何らかの目的で降臨した。その意図は不明だが、ミカとリョウを結ぶ接点にもなっている。

PURPOSE 目的

誰かと結んだ契約によって、少年はミカに接近していると思われる。だが、その真意は計り知れない。チサトやヤヨイとは、かねてからの知り合いのようだが……。すべては謎である。

— MOONLIGHT SYNDROME — 人物相関図

地名について

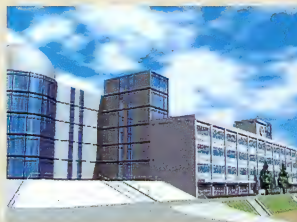
魔性が蠢く雛代の地。物語の舞台となる様々な地名を紹介しよう

ピラミッド御殿

ミカの住むマンションのこと。その形状からユカリなどは、こう呼んでいる。かなりゴージャス。

霜北

雛代から程近いところに位置する若者の街。オシャレな店が建ち並び、ミカたちも御用達。

雛代高校

ミカたちの通う高校。新校舎と旧校舎は渡り廊下でつながっている。新校舎は地上5階、地下2階まであり、その外見は学校とは思えないほど立派だ。

学校というよりは、ハイテクビルのような校舎。地上5階まである

ロストハイウェイ

テクノ系のクラブでミカたちもよく出入りする。人気DJを抱え、イベントなどがあるときは、かなりのファンが集まる。スミオやルミもよく出入りしている。

純粋に音を楽しみにきている者からナンパ目当てまで客層は様々

団地

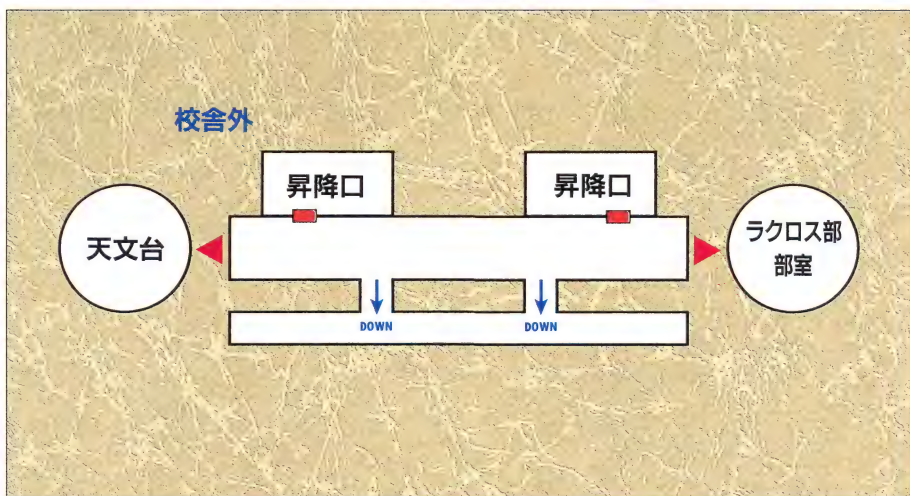
この団地はミカが住むピラミッド御殿の隣にある。A棟からC棟まであり、10階建てだ。共働きの家庭が多く、夕方は子供しかいないという。

居住者には共働きの家族が多い。近ごろ、自殺が多発しているという

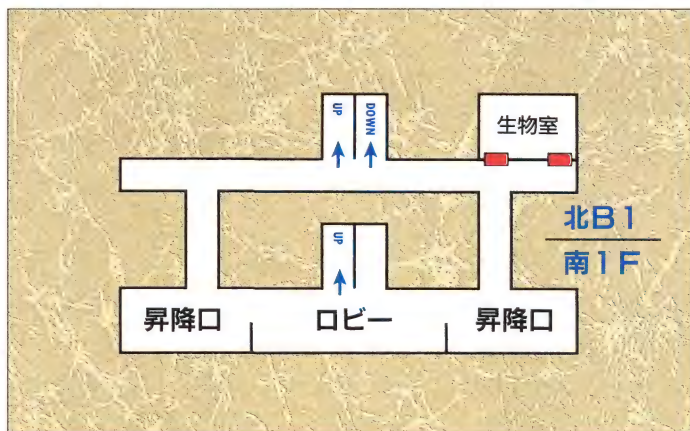
雛代高校見取り図

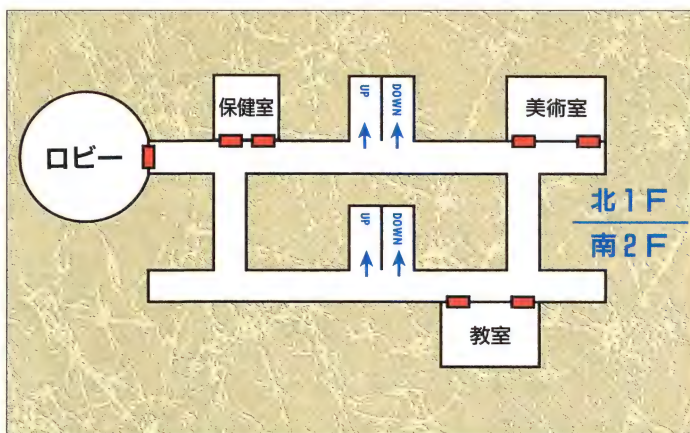
雛代高校の校舎内マップを完全紹介する。
旧校舎と新校舎では階の数え方が異なるので注意

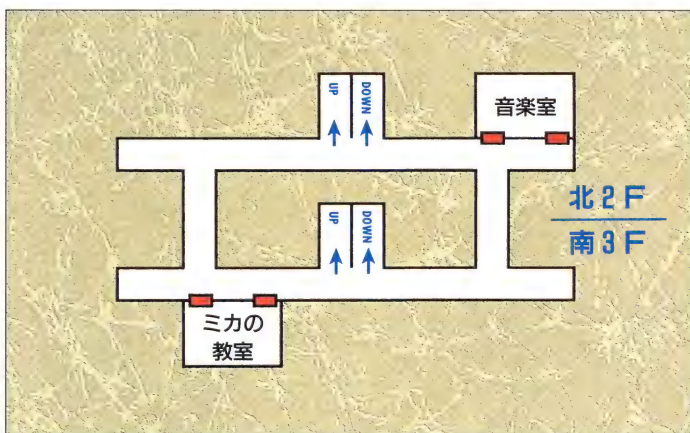
校舎外

校舎の外は左に天体観測部の部室兼天文台、そして右にラクロス部の部室がある。ちなみにミカはこのラクロス部に所属している。

北B1 南1F

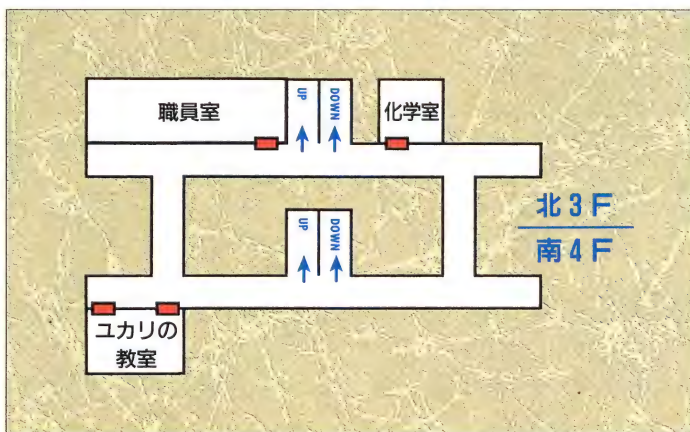
北B1にある主な教室は生物室のみ。南1Fは生徒のげた箱とロビーになっている。

昇降口から校舎の外に出ることができる。

北1F／南2F

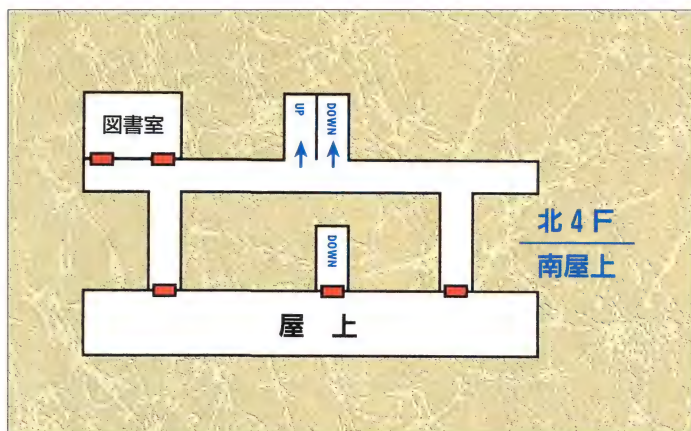
北1Fには保健室、美術室がある。また、保健室の左奥のドアを入るとロビーになっており、公衆電話などが設置。南2Fは1年の教室がある。

北2F／南3F

北2Fには音楽室、南3Fにはミカの教室がある。ミカの教室は特に頻繁に出入りすることになるので、しっかり位置を覚えておこう。

北3F／南4F

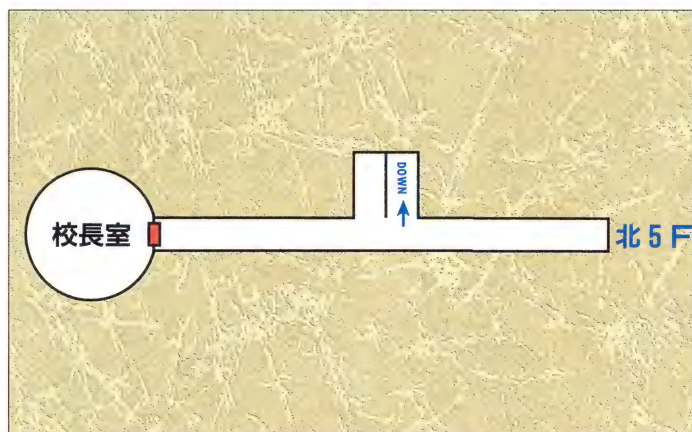
北3Fには職員室と化学室、南4Fにはユカリの教室がある。

ミカの教室同様、ユカリの教室もよく来る場所。位置を忘れないように。

北4F
南屋上

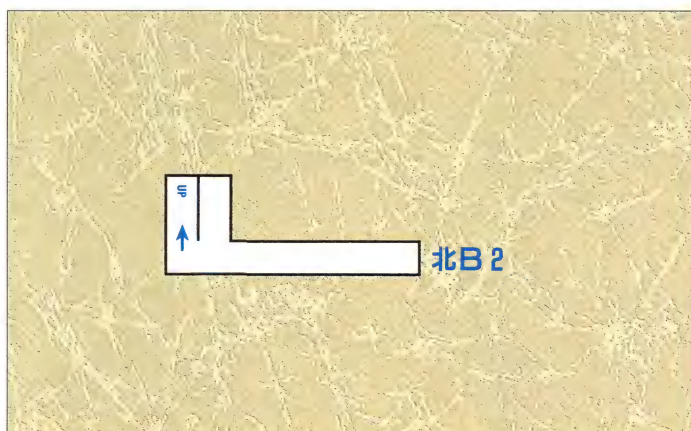
北４Ｆには図書室、そして南校舎は屋上になっている。この図書室や屋上は、生徒にとって憩いの場のようだ。昼食をとるのにも最適。

校長室
DOWN
北５Ｆ

北5F

あまり生徒の来る機会のない北５Ｆ。ここには校長室がある。

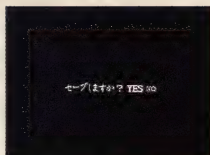
ただし、放課後に生徒が立ち入ることは禁止。何かありそうだが……。

北B2

北５Ｆと同様に、生徒があまり近づかない場所。特に重要な教室があるわけでもない。

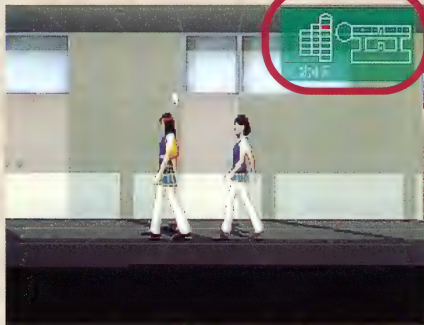
ただ、この北Ｂ２だけ構造が不自然に思えるが。

ゲームシステム紹介

ゲームデータの保存について

ゲームデータをセーブする方法は２種類。エピソードクリア時かアラマタに記録してもらうかだ。ただしアラマタは全面に出てくる訳ではない。

エピソードをクリアすると、記録することが可能

アラマタが登場するエピソードは1、3、4、6、9

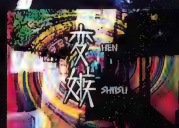
校内マップの見方について

ミカたちが校内を探索する場面では、右上にマップが現れる。このマップは目的の階に来ると、水色の点で目的地を示してくれるのだ。

これが校内マップ。校舎の縦と横の断面図を表示している。うまく使おう

ストーリーの分岐ポイントについて

このゲームはどの分岐を選んでも、結末はひとつ。したがってエピソード紹介では、おもしろい分岐だけをピックアップしていく。

重要そうな分岐ポイント。だが、どちらを選んでも結末は同じになる。ゲームオーバーもないぞ

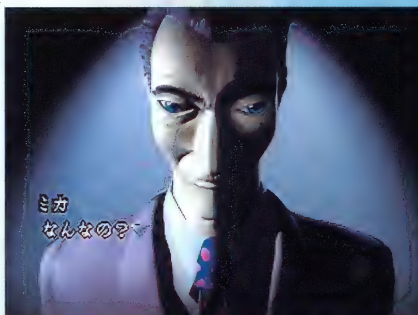
エピソード紹介で取り上げた分岐ポイントは、このように物語には直接関係ないものもあるのだ

ALL EPISODE
INTRODUCTION
月光症候群
【ムーンライトシンドローム】
Moonlight Syndrome

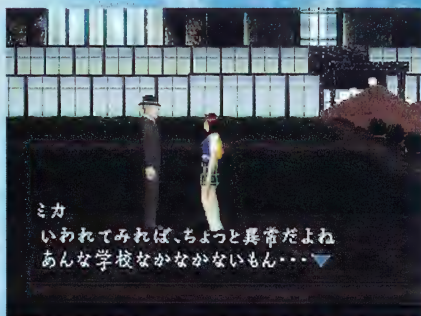
EPISODE 1 えっ、その先輩死んだの？

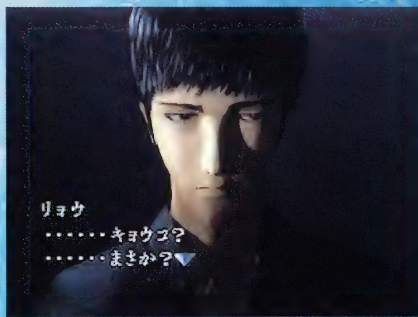
自分とウリふたつの女性の死に驚くミカ。そして白髪の少年との遭遇。ミカの周辺は次第に不穏な空気に満ちていく……。

学校の帰り道、アラマタとの再会

岸井ミカは学校から家へ帰る途中、不思議な男に声をかけられた。「あなたには災いが降りかかろうとしています……」と謎の男はミカに言った。気味が悪くなったミカは急いでマンションへと駆け込むが、そこで自分の名前を呼ぶ声に気付く。不審に思いマンションの外にもう一度出てみると、帽子をかぶった怪しげな男がいた。アラマタだった。

アラマタは以前からの知り合いで、超常現象を研究している変わり者だ。今回はミカ達とこの街を観察することが役目だという。

宗教の勧誘だろうか、ミカに話しかけたあと闇に消えてしまう

アラマタはマンションの左側にいる。雛代高校に起こった怪奇現象を語る

スミオからの電話。リョウとの出会い

ミカが自宅で休んでいると電話がかかってくる。彼氏である冬葉スミオからの呼び出しの電話だった。すぐに自宅から出たミカは、土手の上で華山リョウとすれ違うことになる。

リョウはミカの姿に自分の姉であるキョウコの姿を見る

攻略アドバイス

ミカの部屋から外に出るには、こっそりと行かないと母親に見つかってしまう。少しでも走るとすぐに部屋に戻されることになるぞ。ダッシュせずに歩いて玄関まで行こう。

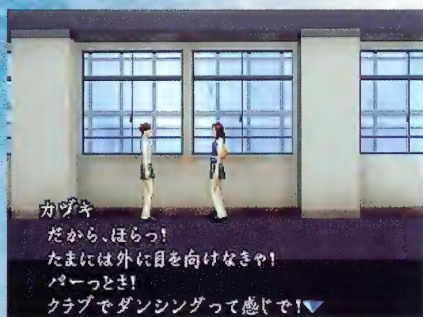
ミカの足音は大きいので、走るとバレバレだ

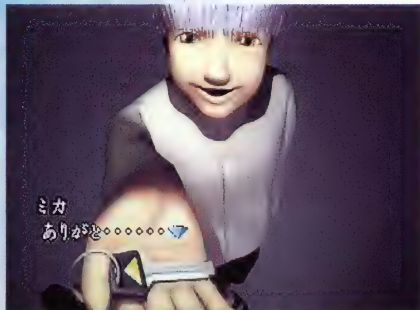
死亡した女性のウワサ話

翌日の教室は麗月峠での事故のウワサで持ちきりだった。死んだのは華山キョウコという雛代高校のOBで、ミカと容姿が似ていた。さらに、キョウコはスミオと付き合っていたらしい。つまりスミオはキョウコとミカに二股をかけていたのだ。ミカはその事実を知りショックを受ける。

廊下に出たミカはカヅキにクラブのパーティーに行こうと誘われる。なんでも昨日、クラブ内で自殺があり、不謹慎にもそのイベントを開催するというのだ。ミカは踊る気にもならないので、その誘いを断った。

スミオが死んだキョウコと付き合っていたと聞いて、青ざめるミカ

キョウコの他にも、昨日クラブで死んだ人間がいるらしい……

白髪の少年との出会い

学校から帰ってきたミカは、自宅のドアの前でカギを落としたことに気付く。そのとき少年が現れ、ミカにカギを渡す。少年は6歳くらいのようだったが、白髪だった。

白髪の少年。この先ミカの周辺に出没することになる

昨日の事故についてのニュース

自宅に戻ったミカ。ミカの父は昨日死亡したキョウコの新聞記事を見て、ミカにソックリだと驚く。

テレビのニュースでは華山キョウコの事故死を告げていた。

事件現場には白髪の少年らしき人影が見える。ただの事故なのだろうか

主な分岐ポイント

不思議な男との会話

スタート時の男との会話。最初の選択肢からさらに分岐をし、ミカのリアクションが変わってくる。「振り向く→様子を見る→話を聞く」と選択すると男の話が聞けるので、初めてのプレイならこれを選ぼう。

男の話を飛ばしたいときは「無視する→気にしない」を選ぼう

アラマタとの会話

アラマタに会わないと、ミカはマンションに入ることができない。アラマタの話の途中で「話を聞く」、「帰る」という分岐があるが、どちらを選んでも聞くことになる。話を飛ばすことはできないぞ。

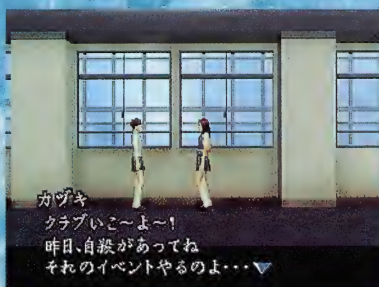
どちらを選んでも同じ。観念して話に耳を傾けよう

EPISODE 1の謎

スミオの大事な話とは？

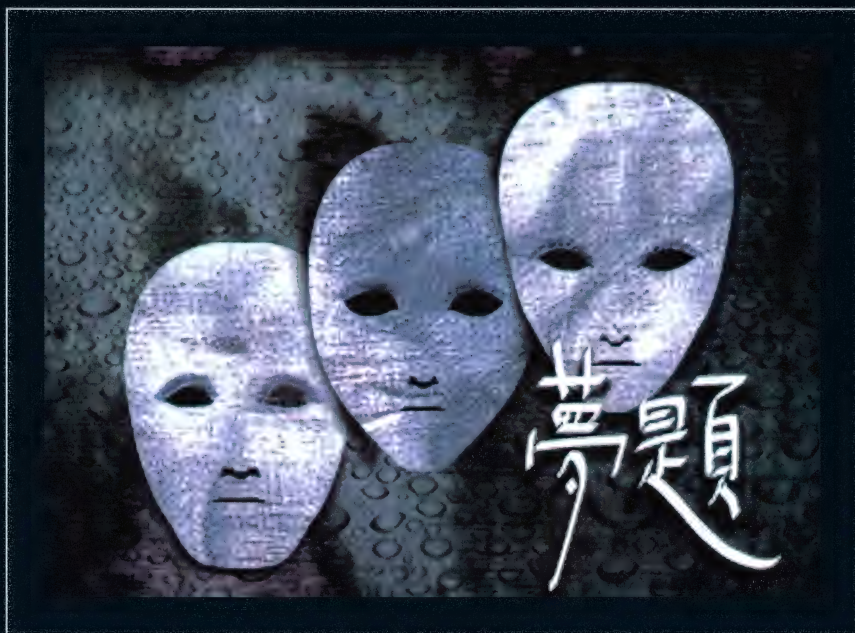
この章はエピソード2の「夢題」と同じ時間に起こる話だ。よってスミオはミカに「自分はいつか死ぬ」ということを告げていたのではないだろうか。

ミカと会った後、スミオはクラブで死ぬことになる。翌日、学校でミカはルミのことを心配していることから、スミオの死には気付いていたようだ。

何も語らずに立ちつくすスミオ。このときミカに何を語ったのか…

クラブであった自殺とは、エピソード2で起こる焼身自殺のことだ

EPISODE 2 これはね、復讐なんだよ…

実の姉であるキョウコを愛するリョウ。スミオはその関係に嫉妬して、ヤヨイを使いリョウを苦しめる。それは、凄惨な復讐だった……。

夢題

Metaphor

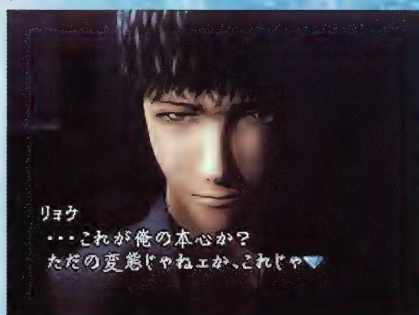
リョウとキョウコ、夢の中での会話

華山キョウコが事故で死んだ日、弟のリョウは夢を見た。夢の中でキョウコは、リョウの気持ちが知りたいと言う。リョウはキョウコを心から愛していたが、それを言い出すことはできなかった。

キョウコは、ふたりがお互いを愛していることを認め、新しい基準で生きようと訴える。対話の中でリョウは、いつもキョウコに守られていたいという自分の願望に気付いてゆくのだった。

だが、夢から覚めたリョウは、ただの変態だと自分を責める。

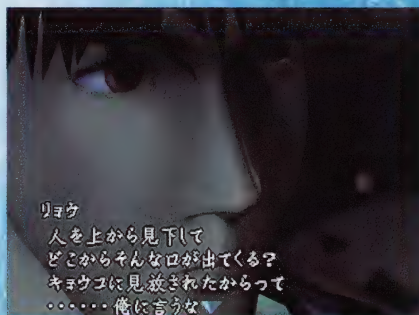
リョウの頭からキョウコの姿が消えることはない……

自分の本心を嫌悪するリョウ。自分の姉を愛することに罪悪感を覚える

スミオのリョウに対する不満

リョウの部屋に冬葉スミオが勝手に入ってくる。スミオは、恋人であるキョウコがリョウに惹かれている事実に苦しみ、リョウを責めたてる。

スミオの言い分は一方的だった。リョウの弱さがキョウコを束縛している。その結果、スミオとキョウコの関係が壊されたと言うのだ。

リョウの反論も虚しく、スミオは「キミがキョウコを守ってやれ、ただ俺は君に執着していこうと思う」と吐き捨てて部屋を去った。

リョウは嫌な気分を打ち消すために、クラブへ行くことにする。

スミオに腹を立てるリョウ。スミオはリョウについての不満を並べる

リョウの部屋はプレハブ小屋のような感じだ

かつて付き合っていたルミとの会話

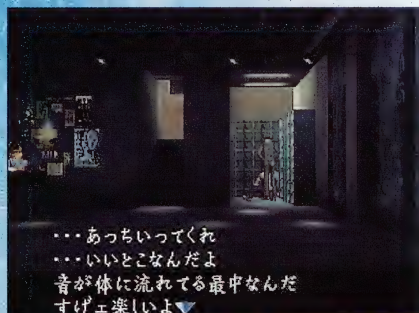
クラブの入り口で、冬葉ルミと出会う。ルミはスミオの妹で、リョウが付き合っていた女性だった。ルミはリョウが自分をキョウコの代わりとして見ていたことが許せなかった。

ずいぶんと勝ち気な態度。これでもミカの同級生だ

クラブで声をかけてきたヤヨイ

クラブ「ロストハイウェイ」はスミオの企画したイベントのため、人が大勢集まっていた。地下のクラブは退廃的な雰囲気で満ちていた。誰もが自分勝手な話をして、無駄な時間を費やしている。

ダンスホールでリョウに話しかけてきた女性がいた。彼女はリョウに興味を持っているようだ。リョウも悪い気はしなかったので、しばらくの間会話をする。

彼女は逸島ヤヨイと名乗り、上で待っているからと言って姿を消す。リョウも後を追って２Ｆへと上がる。

クラブにいる人たちを相手にしていると頭がヘンになりそうだ

その中でヤヨイはまともな話ができる珍しい存在

ムーンライトシンドローム用語集

【パラノイア】 リョウがスミオのことを形容した言葉。疑い深くなり、妄想を抱く精神病にかかった人のこと。別名偏執病とも言い、特定の価値観に固執するようになる。

【テクノ】 シンセサイザーなどの電子楽器を主体に作った音楽のこと。ロストハイウェイではテクノの音楽ばかり流れている。

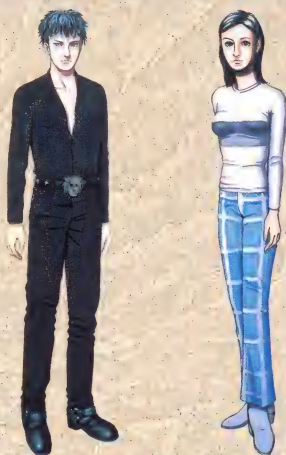
【ジライシン】 クラブの店員がリョウに対して言ったセリフ。「アフタヌーン」で連載している「地雷震」からきている。主人公の刑事である飯田響也はいつも黒ずくめの服装なので、リョウを見て連想したらしい。

LOST HIGHWAY

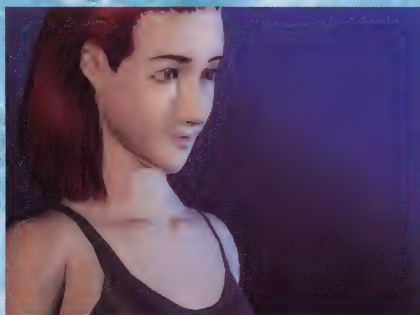
2F

A

A B

B

1F

高校の同級生だったキミカとの会話

リョウは２Ｆのバーで高橋キミカに出会う。キミカはリョウと高校で同じクラスだったというが、リョウは全然覚えていない。キミカはなぜか、元気がないように見えた。

目立ちたいためクラブ通いをしているらしいが、他に目的がありそうだ

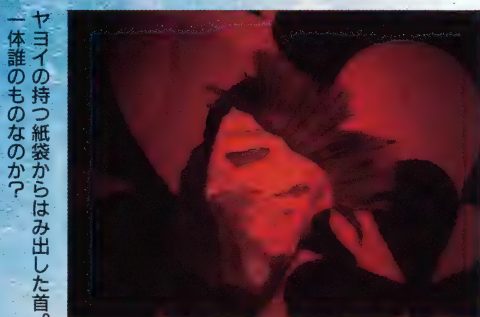
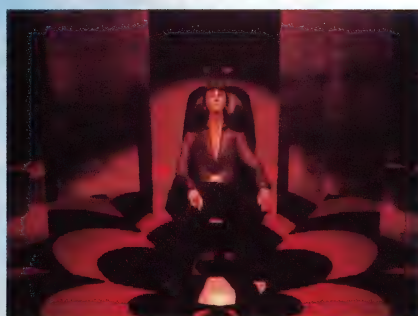
非情な罠にはめられたリョウ

ヤヨイとの待ち合わせ場所に行くリョウ。そこでヤヨイは「キョウコのこと、忘れさせてあげる」と言って奥の部屋にリョウを案内する。リョウはそこに入り呆然とした。なぜ、スミオがここに……？

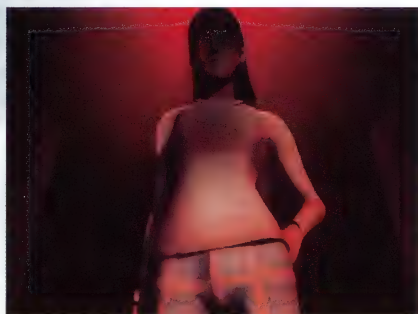
スミオはヤヨイを使ってリョウを誘惑しようとしていたことを打ち明ける。その事実を知り、リョウは部屋から逃げ出そうとする。だが、ドアにはいつのまにかカギがかけられていて、開かない。

そしてヤヨイは、リョウをキョウコから解放して自分だけのものにするために、紙袋を差し出す。紙袋からは血が滴っていた。スミオはリョウが一番辛いと思うことをして、復讐をしようとした。そのためにヤヨイを利用したのだ。

ヤヨイの手からドサッと落ちる紙袋。中からは髪の毛が見える。誰かの首……。リョウは絶叫し、意識を失ってしまう。

椅子に座っているスミオ。ヤヨイもスミオの女だった

ヤヨイの持つ紙袋からはみ出した首。一体誰のものなのか？

リョウは袋の中身を見て気を失ってしまう……

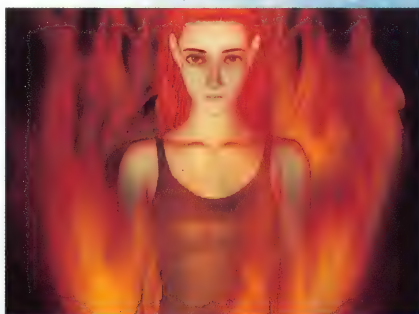
リョウにどこまでも執着するヤヨイ

失神したリョウを見てヤヨイは深い愛情を覚える。リョウをスミオの代わりに手に入れ、自分の奴隷にするつもりだろうか。気絶したリョウを見ながらヤヨイは笑みを浮かべる。

これでリョウは私のもの……。ヤヨイの性格は思ったより凶暴だ

スミオとキミカ。凄絶な心中

ホールに戻ったスミオは別の女性と会話をしていた。そこに血相を変えたキミカが割り込んでくる。キミカは子供が泣いている夢を毎日見ると口走る。おそらく、スミオとの間にできた子供だったのだろう。

スミオはキミカのことを覚えていないようで、それが命取りとなった。突然、キミカはライターで自分の衣服を焼き、火だるまになりながらスミオに覆いかぶさってきたのだ！

だが、スミオは逃げるどころかキミカを受け入れるかのように自ら抱え、共に焼死する……。

「罪を償ってもらう」と自らの体に火をつけるキミカ

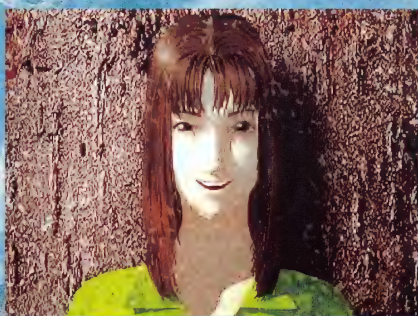
死体を見るヤヨイ。だが、意外にもスミオの死に対する驚きは少ない

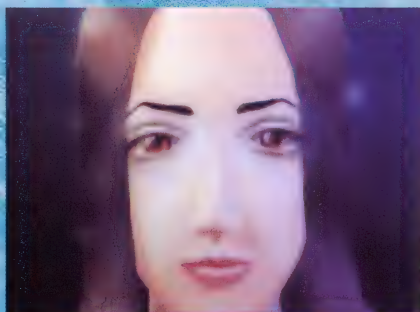
夢の中の「この世の果て」

リョウはそのころ夢を見ていた。草原にたたずむ自分とキョウコ、そしてスミオとルミ。まだ、その関係に亀裂が入っていないころの思い出だった。ルミがあのころに戻りたいと言ったのは、このころのことだったのだろう。

キョウコは生きているセミを見つけ、リョウを呼び寄せる。ふたりの間には何の障害もないように感じられる。スミオの方も現実とは違い、いくらかまともな考えを持っているようだった。だが、このはかない夢も長くは続かなかった……。

まるで精神世界のような場所。草原の中央には木が1本立っている

キョウコの体はなぜか透き通っているようだ……

実の兄を亡くしたルミは……

目を覚ましたリョウはクラブの前で再びルミと出会う。ルミによれば、スミオは「もうじき俺は死ぬ」と言っていたらしい。リョウは大勢の野次馬たちをかき分けて家へと帰る。

雨に打たれているため、ルミは涙を浮かべているように見える

自らの死を伝えるキョウコの電話

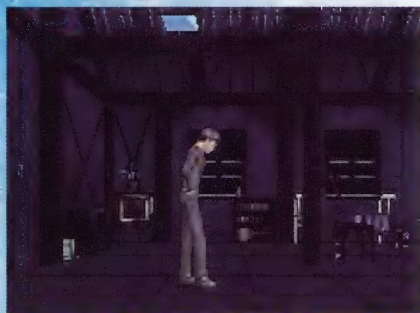
リョウがプレハブ小屋に戻ると、電話が鳴り響く。キョウコからの電話だった。リョウはスミオの死を告げるが、すでにキョウコは知っていたらしい。

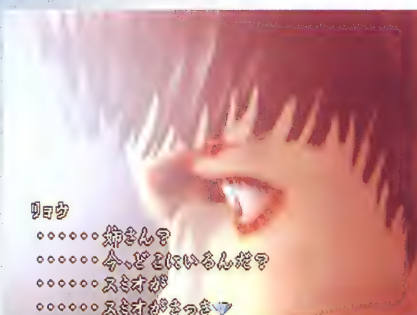
キョウコは突然、「私はもうダメ、逃げられそうにない」とリョウに打ち明ける。リョウは居場所を聞こうとするが、答えは返ってこない。

その代わりに「あなたは深入りしないように。スミオは恐い人だから……」と意味不明の言葉をリョウに投げかける。

キョウコは最後に「……元気でね」と言って電話を切る。

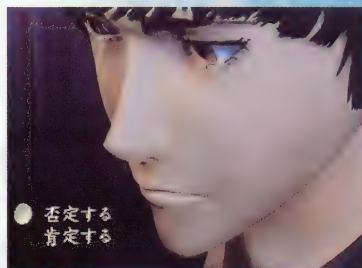
絶叫するリョウ。そしてどこからかクラッシュする音が聞こえてくる。こうしてキョウコもスミオに続いてこの世から姿を消した。

この麗月峠での事故は、この後ニュースで伝えられ、リョウとミカの運命を大きく変えることになるのだった。

部屋に戻ったリョウのもとに届くキョウコからの電話

意外なセリフにあわてふためくリョウ。どうにもならない

事故により、命を落とすキョウコ。飛び散る鮮血が生々しい…

主な分岐ポイント

キョウコとの会話

「守る」、「守らない」の選択肢がキーポイントのキョウコとの会話。結果から言ってしまうと、どちらにしろ姉から守られることになるのだが、途中の分岐で多少、話が違ってくる。

「守る→わからない→否定する」と選ぶと多くのセリフを聞ける

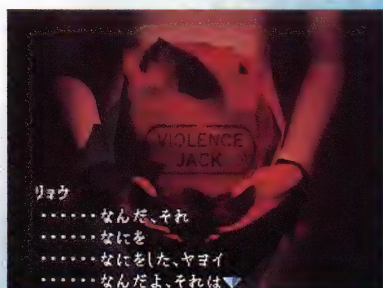
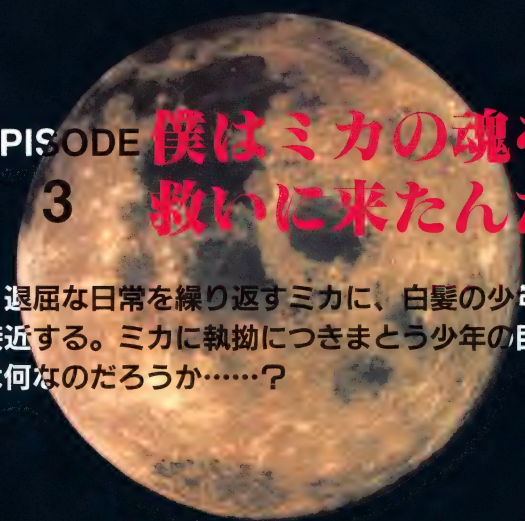
スミオ&ヤヨイとの会話

クラブのスミオの部屋では「部屋を出る」と「ヤヨイを助ける」という選択肢がある。どちらを選んでも結末は同じだが、「ヤヨイを助ける」にした方が情報が多い。ちなみにP34では助けない方の展開を紹介した。

どちらでも結末は同じ。紙袋の中身は必ず見ることになる

EPISODE 2の謎

紙袋からはみ出した首は誰のもの?

全編中最大の謎が紙袋の中にあった首だ。リョウが失神することや、スミオがリョウに一番辛いと思う仕打ちをすると言っていることから、キョウコの首であるというのが妥当な推理。だが、リョウはこの後キョウコと電話で会話している。キョウコは霊界からメッセージを送っているのだろうか?

エピソード10でもリョウは大事そうにこの紙袋を抱えている

髪の感じとしてはキョウコ、もしくはミカに近い

EPISODE 3 **僕はミカの魂を救いに来たんだ**

退屈な日常を繰り返すミカに、白髪の少年が接近する。ミカに執拗につきまとう少年の目的は何なのだろうか……？

Gossip

学校内の気になるウワサ

いつものように遅刻ギリギリで教室に駆け込むミカ。でも反省の色はまったくない。

全ての授業が終わり、放課後になるとミカはクラスメイトの相原カヅキに面白い話はないかと問いかける。しつこく聞くミカにカヅキは化学の広瀬先生の挙動が怪しいと伝える。その情報に飛びついたミカは、先輩である長谷川ユカリにこの話を持ちかけようと教室を出た。

廊下でミカは鹿原アリサとバッタリ会い、明日の約束（霜北に10時集合）を忘れないように念を押される。

退屈なミカにとってはどんな情報も大切なのだ

アリサは変わったしゃべり方をする。ミカより学年が1つ下だ

特別講習をサボり居眠りするユカリ

ミカは早速カヅキから仕入れた情報を伝えるため、３年の教室にやって来た。先輩である逸島チサトに話を持ちかけると、ユカリなら知っているかもしれないと言う。

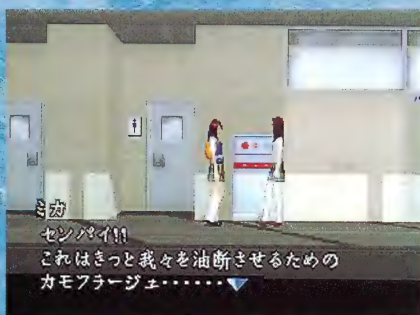
屋上でユカリを見つけたミカは、例の話をするが、聞いてくれるどころか居眠りをしてしまう始末。

ミカはひとりでも真相を確かめようと、化学室へ向かった。だが、ドアにはカギがかかっていて開かない。やはり何か怪しいと思ったミカは、もう一度ユカリを説得するために屋上へと向かう。

チサトはユカリの親友だが、わりとしっかりしている

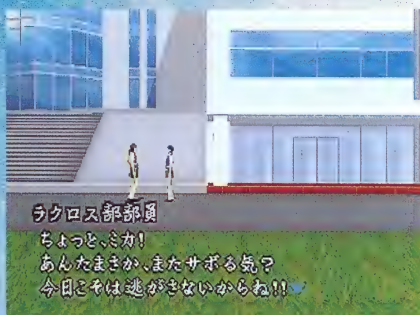
陽気に寝ころんでいるユカリ。受験は大丈夫なのだろうか？

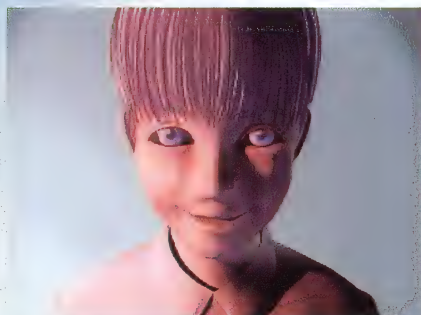
広瀬のウワサの真相はいかに

ミカはめんどくさがるユカリを説得して、もう一度化学室の前に来る。ドアの隙間から中の様子を覗くと、広瀬が行ったり来たりしている。そして突然教室から飛び出して来る！

くだらない出来事だったが、ミカのフォローはいいところをついている

ラクロス部で少年と遭遇

ユカリに愛想をつかされたミカは、しかたなく下校することにした。だが、運悪くラクロス部の部員につかまってしまう。ミカはラクロス部員だったのだ。泣く泣く部活に参加させられるハメになってしまった。

なんとか部活を終えて更衣室で着替えていると、いつのまにか部員たちがいなくなってしまう。部室もカギがかけられてしまい、様子がおかしい。みんなを探すミカの前に、どこからともなく白髪の少年が現れる。そして、これからミカの周りでいろいろな災いが起こると予言する。

昇降口を出たあたりで、見つかってしまった

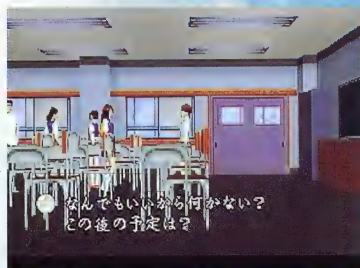
得体の知れない少年。人間でないことだけは確かだ

攻略アドバイス

北の１Ｆにアラマタがいる。ここに来ればエピソードの途中でもセーブできるので、有効に利用しよう。ちなみに、職員室や北５Ｆに行こうとすると先生に注意されてしまうぞ。

アラマタは保健室の前あたりにいる

主な分岐ポイント

カヅキとの会話

ちょっと重要な分岐が冒頭のカヅキとの会話。「この後の予定は？」を選ばずに「なんか面白い話ない？→なんでもいいから何かない？」と選ぼう。そうすると広瀬のウワサを聞き出すことができる。

途中であきらめてしまってはダメ。しつこく聞こう

校舎外に出て話を飛ばす

会話による分岐ではないが、ミカの行動で途中のストーリーを飛ばすことができる。アリサと別れた後、３Ｆには行かずに、いきなり昇降口を出てみよう。そうするといきなりラクロス部の部室に行けるぞ。

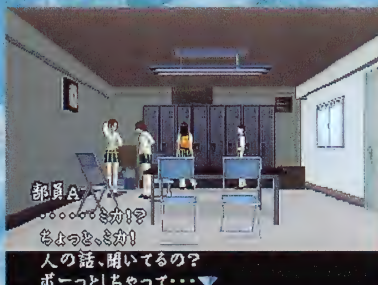
学校内は行ける場所が少ないのに、意外と校舎外には移動可能

EPISODE 3の謎

ミカにつきまとう少年は何者だ？

この先ミカの周辺に出没することになる少年。その正体は契約の神ということしかわかっていない。おそらく誰かと契約をかわして、現世に現れたのだと思われる。

そして契約の対象がミカなのは間違いない。だとすればこの少年と契約を結んだのは一体誰なのだろう？

ミカのことは何でも知っているという少年

少年が消えると同時に部員たちも戻ってきた。少年は幻なのか？

変嫉
HEN
SHITSU

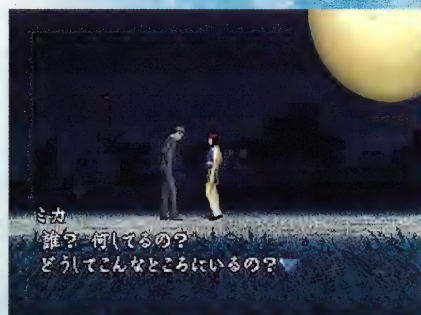
Nightmare

夢の中でリョウとの会話

ミカは夢を見ていた。どこかの住宅街を歩いていると、吹いてくる風。その風の匂いをどこかで嗅いだことがある、とミカは思った。そのことをチサトに告げると妖精のしわざだと言う。なんでも妖精はすごく人間に嫉妬していて、幸せな人を見るとその人に近づいて金色の粉をふりかける。その匂いはきっと粉の匂いなのだろうとチサトは言う。

妖精のことを考えながら土手を歩くミカ、そこで怪しい男と出会う。リョウだった。リョウは何かをミカに伝えようとするのだが……。

妖精のせいだというチサト。ユカリには馬鹿にされるが……

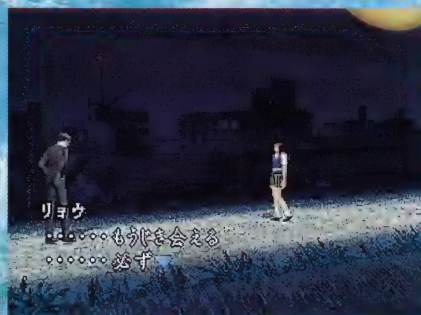
夢ではあるが、リョウとミカは初めて言葉をかわす

凶行に走るチサトとミカ

夢はまだ続いていた。ミカは自宅の近くでチサトに出会う。チサトはなぜか返り血を浴びていた。チサトはミカに家に帰っても誰もいない、と言う。話を聞いてみるとミカのために、ミカの家族を殺したのだと言う。ミカは逆情してチサトを殺す。

場面が変わって先ほどの土手の上。まだリョウとの会話は続いていた。リョウは「俺はすべてを許せる」、「君を守るべき時がきた」などと語るが、ミカにはわけがわからない。

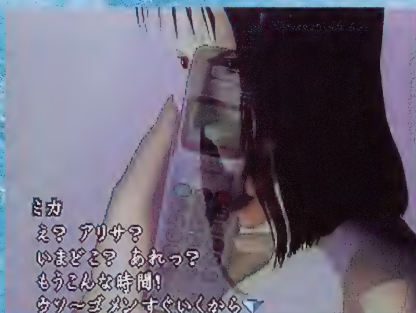
リョウとの会話が終わると、ミカはピッチの呼び出し音で目覚める。

ナイフでチサトを刺すミカ。チサトは崩れ落ちる

リョウはもうじき会えると言って姿を消す

アリサからの呼び出し電話

ミカはあれほどアリサに約束を忘れないでと言われていたのに、寝過ごしてしまったようだ。今日は霜北でショッピングをする予定だったのだ。すっぽかされたアリサはカンカンになって電話をかけてくる。

ミカは急いで家を飛び出し霜北へと向かう。その途中で誰かにつけられている気配を感じ、次第に嫌な感じがしてきた。

少し躊躇したが、後ろを振り返ってみると犬の散歩をしている青年の姿が目に入った。散歩している犬は凶暴そうで吼えてばかりいる。

アリサからのモーニングコール(?)で約束のことを思い出す

外見は普通の人なのだが、その正体はミカをつけ回すストーカー

4人の変質者たちが次々と……

霜北に急ぐミカにまた試練が降りかかる。狭い一本道に群がる変質者たち。浮浪者にデブ、そして厚化粧の女。決心して前に進むと案の定、まとわりついてきた。

どこへ行っても変質者ばかり、いったい何なの〜、この街は？

攻略アドバイス

浮浪者、デブ、厚化粧の女との会話で間違った答えを選ぶと、また最初に戻るハメになる。ここは次ページを見ながら○印にたどり着くように会話を進めていこう。

特にこのデブの話は何度も聞きたくない。一発クリアだ

デ　ブ

- 逃げる → ×
- 話す ↓
  - 逃げる → ×
  - ゲームのことを聞く ↓
    - 逃げる → ○
    - マッハ蹴り → ○
    - バタフライキック → ○
    - ダイナマイトパンチ → A
  - 一緒に行く ↓
    - 逃げる → ×
    - 延髄ラリアート → ○
    - タックルからのマウントパンチ → A
    - ローリングエルボー → ○
  - 誘惑する ↓
    - 逃げる → ×
    - 袈裟切りチョップ → ○
    - マンハッタンドロップ → A
    - 反則ローキック → ○

A →
- 逃げる → ×
- バタフライパンチ → ○
- かかと落とし → ×
- ヒザ蹴り → ×

女

逃げる　見た　見てない

逃げる　見た　見てない

×　A

A

知らない　ミカ　ユカリ　チサト

×

嘘ついていない?　○

本当なんだ　×

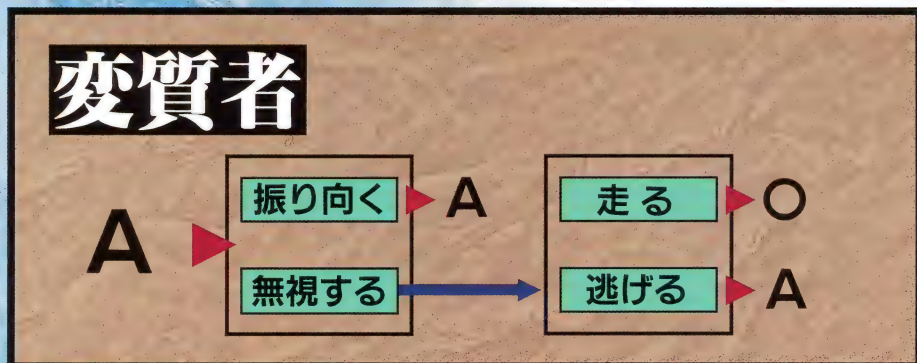
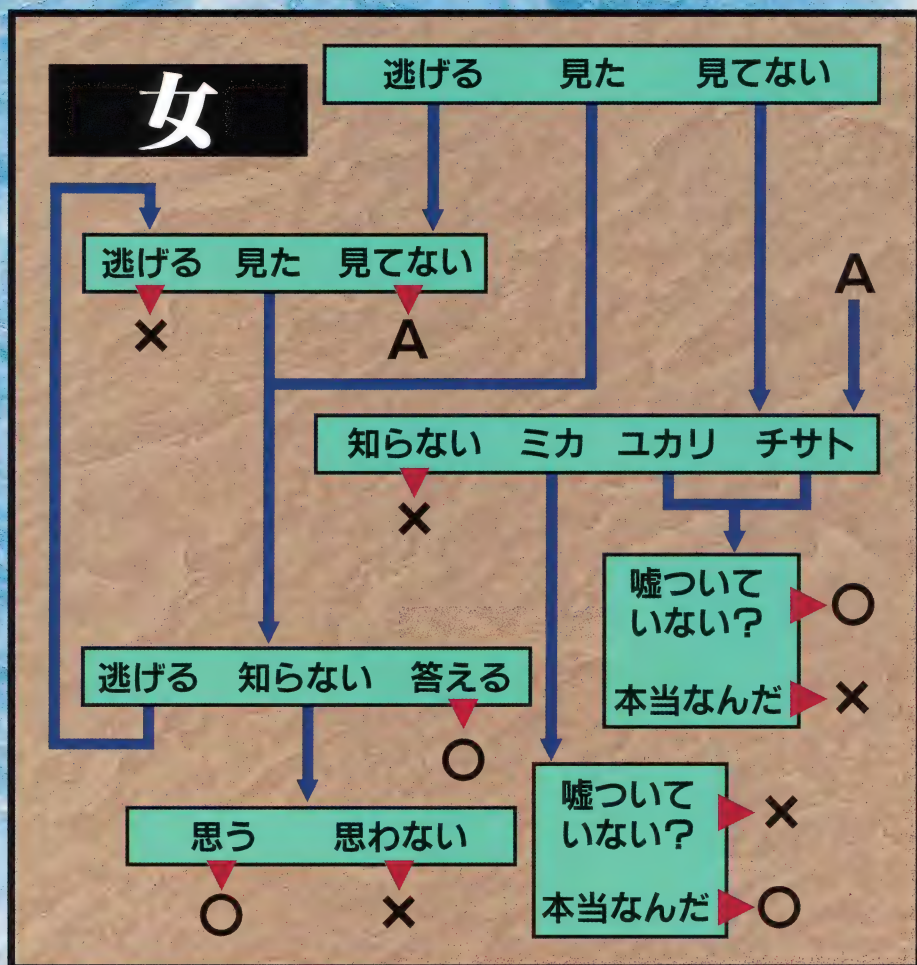
逃げる　知らない　答える

○

思う　思わない

○　×

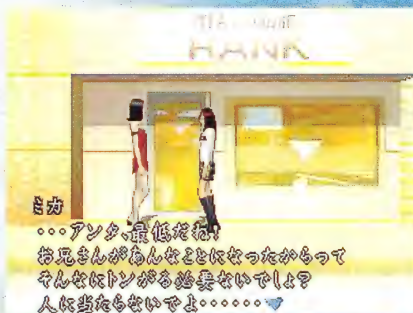
嘘ついていない?　×

本当なんだ　○

さらに30分遅れて霜北に到着

やっとのことで霜北についた。待ち合わせの場所である「MISERABLE LIE」の店頭でアリサと合流。そして勝手にショッピングに行ってしまったルミを探すことにした。

ワガママを並べるアリサ。でも遅刻したミカは何も言えない

アリサを待たせてルミを探すミカ

ミカはレコード店の前でルミを見つける。アリサと再び合流するためにカフェ「RANK」に行くが、店の中は真っ暗で誰もいない。ルミはイラついて帰ってしまった。

何かと突っかかってくるルミ。友達とは思えない厳しい発言

ミカを罠にハメるヤヨイ

ひとりでアリサを探すミカに見知らぬ女性が話しかけてきた。彼女は逸島ヤヨイと名乗る。ミカの先輩である逸島チサトの妹らしい。ヤヨイの礼儀知らずの発言にミカはだんだん腹が立ってくる。

ヤヨイはアリサに頼まれてミカを探しにきたと言う。不審に思うミカだが、案内してもらうことにした。

しかし、ヤヨイはいつのまにか姿を消してしまう。そして、ミカの後ろから、先ほどの犬を連れていた青年が声を荒らげて追ってくる。彼はストーカーだったのだ！

初対面の人にいきなりケンカを売るようにしゃべるヤヨイにミカは激怒

さっきからミカをつけ回していたのはこの青年だった

リョウ、ミカのピンチに駆けつける

リョウはミカの危機を察して、霜北までやってきた。そこで再びヤヨイと出会う。ミカをどこかに連れて行ったというヤヨイに対してリョウは激怒し、ミカの居場所はどこだと詰め寄る。

ヤヨイはリョウをミカに会わせるため地下のショッピングモールに案内する。地下の広場で踊る人々をかき分け、前へと進むリョウ。しかし、行き止まりにはヤヨイとあの少年がいるだけだった。ミカの姿は見えない。ミカに嫉妬するヤヨイに、リョウはまんまとだまされたのだ。

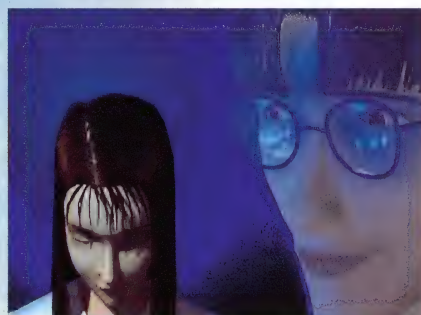
自分の姉にうりふたつのミカを助けようとするリョウ

少年とヤヨイは仲間なのだろうか。リョウの怒りが増す

ユカリとチサトがミカを助ける

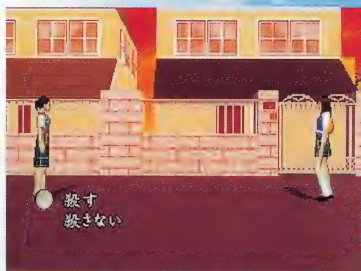
そのころストーカーは、逃げまどうミカを追いつめていた。声を荒らげ、今にも襲いかかってきそうだ。だが、そのときミカを助けに現れたのは、リョウではなくユカリとチサトだった。

ふたりの手によってミカは助かり、ストーカーはパトカーで連行される。「絶対に許せない!!」チサトがそう強く感じた瞬間、何らかの影響を及ぼしたのだろうか、ストーカーはパトカーの中で突然、舌を噛み切ってしまう。この後ストーカーがどうなったのかは分からない。

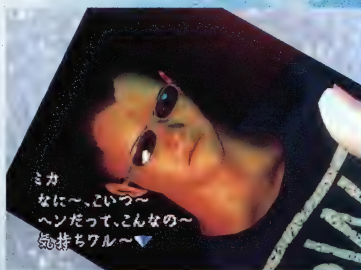
ハァ、ハァ、ハァ……息づかいがかなり危ない

間一髪でユカリとチサトがやって来る。助かった！

主な分岐ポイント

夢の中のチサトとの会話

夢の中でのチサトとの会話。「聞く」、「聞かない」のどちらを選んでも「殺す」、「殺さない」の選択肢が出現する。「殺す」を選ぶとチサトをナイフで刺し、「殺さない」を選ぶと逆に命を奪われてしまう。

どちらを選んでもストーリーは同じ。プレイヤーの意志で選択

アリサとの会話

ミカがアリサと会うと「アリサと行く」、「それでもルミを探しに行く」の選択肢が出る。どちらにしろルミを探すことになるのだが、「アリサと行く」にすると面白い会話が聞ける。

アリサはバイオレンス河野のファンだということがわかるぞ

EPISODE 4の謎

ヤヨイの目的は何だ？

ヤヨイの目的はリョウに関わる女性を消すことだろう。キョウコが亡くなった今も、リョウの心はミカに傾いている。よって、ヤヨイはミカを狙っていると考えるのが普通だ。

少年とヤヨイが一緒にいるということは、やはり少年もミカを消そうとしているのかもしれない……。

ミカに急接近するヤヨイ、好意を抱いているとは思えない

リョウへの執着心はスミオ以上かもしれない

EPISODE 5 ウソ……
ワタシジャナイ

学校で少年を見かけたミカ。知らず知らずのうちに異世界へと引き込まれてしまう。そして幻覚の森の中でミカは友達を殺害する……。

SCHOOL APPEARANCE
CLASSROOM HALLWAY
CONNECTION PASSAGE
STAIRS
NEW SCHOOL HOUSE
ROOF
FOREST
CORPSE
MURDEROUS WEAPON
KNIFE
CONDOMINIUM'S ROAD
AMBULANCE

Knife

放課後の校舎で少年と３度目の遭遇

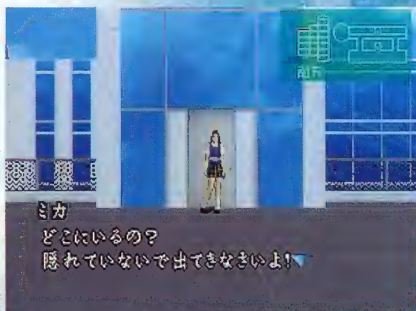
いつものように寝不足ぎみのミカ。今日も早く帰って寝ようとするところにクラスメイトのミホがやって来る。ミホと会話しているときに、ミカはあの少年の姿を廊下に見る。

先生を殴ってしまったというミホ。ちょっとアブナイやつだ

迷路と化した雛代高校

少年の姿を追ってミカは校舎内を駆けめぐる。しかし、まるで異世界に紛れ込んだかのようにどこをどう進んでも思う場所に行けない。どうやら階段や通路のつながりがメチャクチャになってしまったようだ。

あざ笑う少年の声を聞きながら、ミカは校舎をさまよう。何度も屋上へと戻されるが、辛抱して進む。

やっとのことで少年を見つけることができた。見つかった少年はミカの教室の中に駆け込む。ミカも後を追って教室に入った。だが、そこもまた異世界だったのだ。

屋上に来ると聞こえる少年の声。校舎の抜け方は次ページを参照しよう

ミカの前に現れる少年。いったい彼の狙いは何なのだろう？

ムーンライトシンドローム用語集

【ロープレ】 ＴＶゲームのジャンルであるロールプレイングゲームのこと。主に経験値を稼ぐことで主人公が成長するゲーム。

【ルーソー】 ルーズソックスのこと。主に女子高校生がはいている靴下で、ゴムが抜かれてダブダブしたもの。

【耳ピー】 耳につけるピアスのこと。

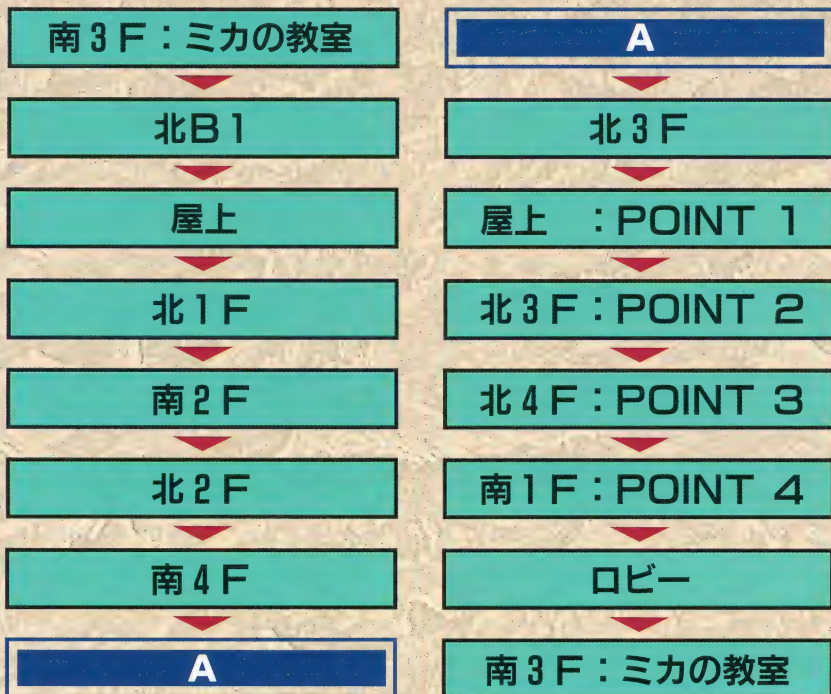
【デフォルトスカート】 故意に丈を短くしたりしていないノーマル状態のスカート。

【ピッチ】 「パーソナル・ハンディホン・システム」と呼ばれる携帯電話。略してＰＨＳ。さらに略してピッチ。

校舎を抜けるための道順

最短でクリアする道順がコレ。最初はどこをどう行っても出る場所が決まっている。しかし、POINT 1の屋上からは正しい道順で進むこと。

南3F：ミカの教室
↓
北B1
↓
屋上
↓
北1F
↓
南2F
↓
北2F
↓
南4F
↓
A

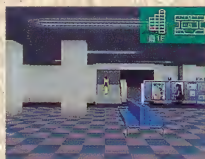
A
↓
北3F
↓
屋上　：POINT 1
↓
北3F：POINT 2
↓
北4F：POINT 3
↓
南1F：POINT 4
↓
ロビー
↓
南3F：ミカの教室

POINT 1

ここからが真のスタートだ。まず後ろの扉を開けて北3Fに出よう

POINT2

渡り廊下を戻ると屋上に戻るので、ここは必ず階段を上がるか降りるかしよう

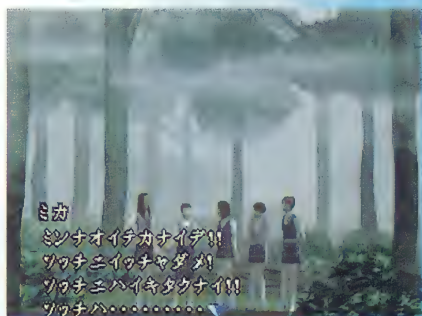
POINT3

ここでは階段を上がってはダメ。渡り廊下を移動すると南1Fに進めるぞ

POINT 4

南1Fに出たら昇降口からロビーへと進む。ロビーに出たら中央の階段を登ろう

夢の中で友達を殺害するミカ

見知らぬ森の中でアリサ、カヅキ、ミホ、ユカリ、チサトたちが笑っている。ミカはみんなのところへと行こうとするが、どうしても体が動かない。声を出してみても誰もミカに気付くこともないまま、みんなは森の奥へと消えていく。

次の瞬間、ミカはみんなの死体を見た。そして自分の手には血塗られたナイフが握られている。どこからともなく聞こえてくる少年の声。少年はミカがみんなを刺し殺したと言う。そのあたりで、ミカは目が覚めた。すべては夢だったのだろうか…。

森の中で楽しそうにしているみんな。「そっちに行ってはダメ」と思うミカ

目の前に広がる死体の山。全部ミカの仕業なのか？

EPISODE 5の謎

ミカが見た幻覚は何を意味する？

ミカは夢の中で殺人者になってしまう。なぜ少年はミカに幻覚を見せたのか。その答えはエピソード10をプレイしてみるとおのずとわかるはず。少年はこの後の出来事をミカに知らせようとしたのだ。

ミカは森の中で遊ぶみんなに対して、そっちに行ってはいけないと言うが、それは危険な場所に踏み入らないようにという忠告なのだろう。

ミカの呼びかけに答えもせず、「危険な場所」へと向かうみんな

この中にルミの姿がないのは興味深いところ

EPISODE 6 ……次はナナがダイブするの

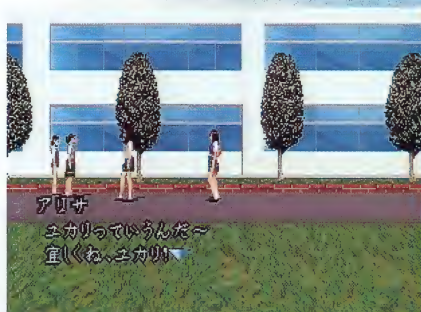
団地の子供たちの集団飛び降り自殺。そして自殺の指導をする謎の少女リル。ミカたちは自殺を止めようと必死になるのだが……。

Be spirited away

ミカの家の近くで飛び降り自殺

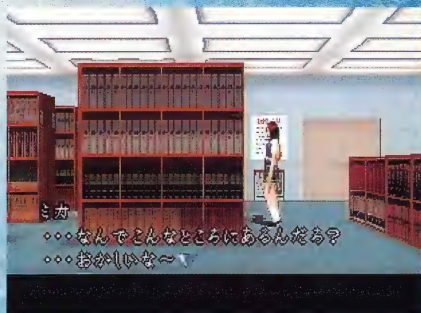
その夜、ひとりの男の子がマンションの上から飛び降り自殺をした。それを見守る少年少女たちのグループ。男の子は即死だった……。

翌日の放課後、ミカは自宅近くで起きた飛び降り自殺を先輩たちに伝えようとする。しかし、ユカリは他人の死を興味本意で語るミカの気が知れない。

そこにやって来るチサトとアリサ。ふたりは意外にも弓道部の先輩後輩同士だったのだ。いきなりタメロで会話するアリサに腹を立てたユカリは、先に帰ってしまう。

後輩であるアリサだが、ユカリを呼び捨て。別に悪気はないらしい

ミカはチサトにも自殺の真相を確かめようと持ちかける

意外な場所にあったピッチ

ミカは図書室に忘れたピッチを取りにアリサと校舎に戻る。その途中で校長先生と出会うが、ここでもアリサはタメロだ。図書室でピッチを見つけたミカたちは急いで下校する。

ピッチはこの本棚の後ろ。なぜこんな所にあるのかミカは疑問に思う

リダイヤル先には白髪の少年がいた

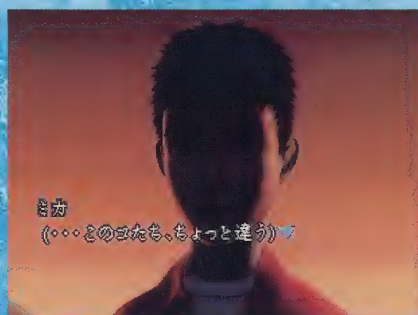
私服に着替えたミカは例の団地にやって来た。アリサをピッチで呼び出そうとしたとき、見知らぬ番号が目に付く。リダイヤルしてみると電話口に出たのは白髪の少年だった。

少年はキミカの次は誰が死ぬのか、と謎めいたメッセージを伝える

ミカを脅す3人の中学生

団地に入っていく少女を見つけ、ミカは調査を開始する。中に入るとチョークで書かれた人型の線を発見。どうやら昨日の自殺はこの場所で起こったらしい。

何か後ろでささやき声が聞こえるので、後ろを振り返るミカ。そこには3人の中学生たちがいた。彼らはミカを追い出そうと騒ぎ立てる。

その会話の中で彼らがリルという少女におびえていることをミカは聞きのがさなかった。彼らは二度と来るなとミカに忠告すると、3人バラバラに帰っていく。

いきなり「やっちまおうか」と過激な発言。子供とは思えない

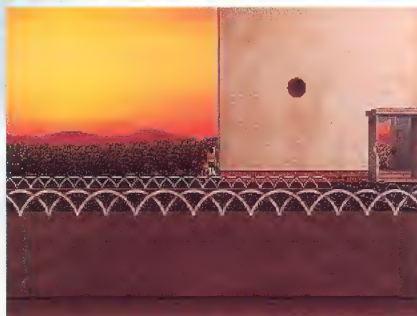
3人が分かれた後にも話を聞けるが、選べるのはひとりだけだ

アリサ、ナナを助けると誓う

遅刻したアリサは泣いているナナに出会う。話を聞くと次はナナが飛び降りる番だと言う。アリサはリルという少女がやって来る前に、ナナの部屋に助けに行くと約束をする。

少女の部屋は803号室らしい。アリサは急いでミカを探すことにした

ニセモノアリサがナナに接触

ミカと合流したアリサはナナの危機を伝える。ミカはリルを探すのが先か、ナナを助けに行くのが先かと迷う。一方、ナナの元にはアリサの姿をした何者かが訪れていた。

アリサとの合流前にセーブ可能。後の分岐のためアラマタ手帳に記録だ

ナナとリル探索の分岐と道のり

ナナとリルのどちらを先に探すかで分岐する。ナナを最初に探す場合はふたりでの行動になるが、リルを探す場合はミカの単独行動になるぞ。

ナナを探す

ナナを先に探すことにしたミカとアリサはC棟に行く。だが、そのときすでにナナは誰かに連れ去られてしまう。

ナナの部屋

ナナの部屋があるC棟の803号室に行くが、部屋はもぬけの空になっていた。ふたりはリルを探すことにした。

リル探索へ変更

タケルとの会話

先ほどミカに忠告したグループの中のひとり、タケルと出会う。リルがA棟に住んでいることを聞き、アリサはミカよりも先にそこに向かう。

アリサと別れる

リルを探す

ミカはリルを探すことにしたが、ナナのことがどうしても気になるアリサは、単独でナナの部屋に向かうことにした。

アリサを追う

それでもリルを探す

タケルとの会話

リルを探す途中でミカはタケルと出会う。リルはA棟にいることがわかるが、その他は聞いてもわからない。だがタケルはナナを心配しているようだ。

アリサ、ナナの部屋へ

一方、ナナの部屋に着いたアリサだが、部屋の中には誰もいなかった。一足違いでリルに連れて行かれたのだ。

ミカA棟で明かりのついた部屋を探す

A棟に来たミカは明かりのついている部屋を調べる。2階の10号室、3階の7号室、7階の1号室、8階の1と9号室、9階の2号室、10階の9と10号室に人がいるようだ。

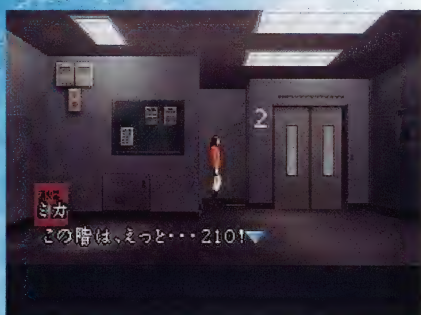
ヤヨイとチサト、因縁の対決

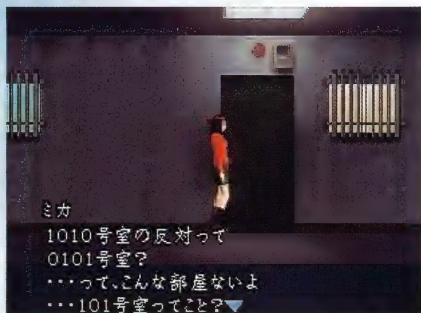
チサトとユカリが団地に来る。そこでチサトは敵対する妹のヤヨイと出会う。ふたりの間にオーラが発生し、それに挟まれたユカリはC練の屋上、自殺の場所に飛ばされる。

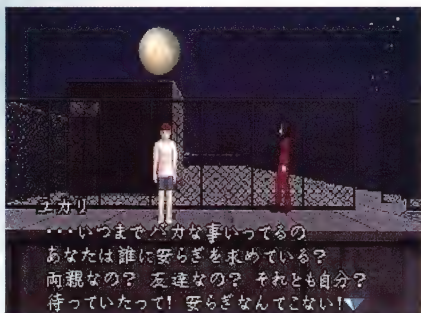
ふたりの持つ壮絶なパワーがぶつかり合う!

嘘つきだらけの子供たち

一方ミカはリルの部屋を確かめるため、A練を1階からしらみつぶしに回っていた。一向に有効な情報を得られないミカは一計を案じる。部屋の中の子供にリルが呼んでいると言って、その後をつけることにした。その子供は途中で見失うが10階に行ったようだ。さらに9階でリルは10階の10号室にいるという情報を得た。

しかし、10階でその情報が嘘だということがわかる。どうやらすべての情報は全部反対だったらしい。10階の10号室、最上階の一番奥の部屋。この正反対がリルの部屋だ!

ミカの言う部屋を探そう。ただし各階には4号室がないので注意

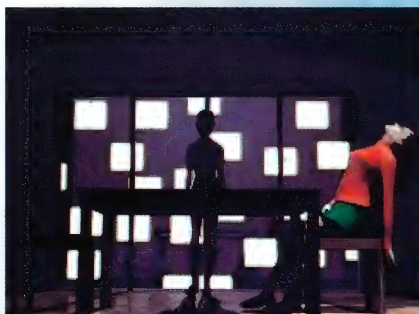
ズバリ、リルの部屋は1階の101号室。全部部屋を調べた後に行くと入れる

ナナの自殺は止められない……

屋上に飛ばされたユカリはそこで今にも自殺しようとしているナナを発見。なんとか説得を試みるがナナの決心は変わらない。結局、ナナは屋上から飛び降りることになる。

ナナを思いとどまらせることはできない。最悪の結果になってしまう

団地のリーダーの不毛な思想

リルの部屋にたどり着いたミカ。リルはミカの言いたいことがわかるかのように、自分から連続ダイブのことについて語り出した。

団地にいる少年少女たちの親は仕事で帰るのが遅い。誰もが孤独で無意味な時間をつぶして暮らしている。そんな暮らしを打破するためにダイブをするのだ、とリルは言う。妄想じみた答えだ。ミカはどうすれば自殺を止められるのかリルに聞く。

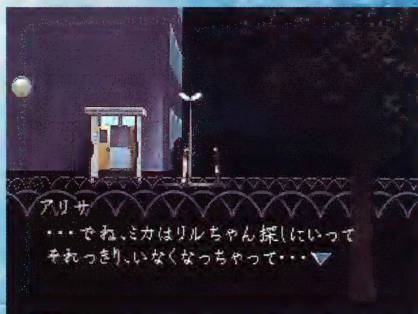
一方、ユカリはナナが助かったことを知る。どうやらタケルがナナを受け止めてくれたようだ。

話が終わるとリルはミカにお茶を出すが、それには睡眠薬が入っていた

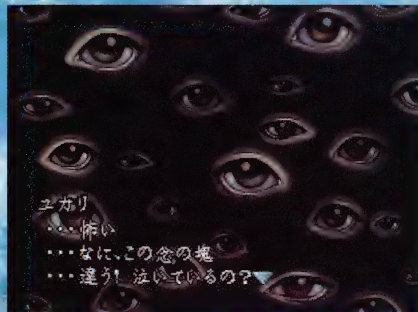
タケルの手によりナナは助けられた。ミカの説得が効いたようだ

子供たちの怨念が襲いかかる！

薬入りのお茶を飲まされて意識を失ったミカ。リルはきっかけをくれたミカに感謝する。自分がダイブすることによって、みんなの自殺を止めようとする気なのだ。

アリサの方はすっかりみんなとはぐれてしまったが、チサトと会うことができた。アリサはユカリを、チサトがミカを探すことにする。

一方、ユカリは飛び降り自殺のあったマンションの付近で、多数の子供たちのうめき声に意識をかき乱される。だが、そのときアリサが怨念を追い払い、ユカリを助ける。

やっとチサトと会うアリサ。チサトはリルを探しに行ったミカを追う

自殺によって生み出されたさまざまな怨念に苦しめられるユカリ

ダイブしたリルの下敷きになった男

屋上から飛び降りようとしているリル。チサトはリルに自殺を止めるように説得を始める。しかし、リルはみんなを助けるためにも自殺をすると言う。その決意は変わらない。

なおも説得を続けるチサトの姿にリルは天使を見出す。そしてその天使が自分を迎えに来ているのだと思ってしまう。リルは静かに屋上からダイブした……。

その瞬間、中年の男がリルの落下する場所にやって来た。落下現場に居合わせたユカリとアリサは、突然の出来事に絶句する。

チサトの後ろに現れる顔。これがチサトの正体なのかもしれない

偶然通りかかる男。そして運悪くリルとぶつかってしまう

事故をあざ笑うヤヨイ

偶然通りかかった男はリルの父親だとヤヨイは言う。リルの父親は死んだが、リルは助かったのだ。だが、命をもてあそぶヤヨイにチサトの怒りは爆発する。チサトとヤヨイの周辺は再びオーラにまとわれる。そして、ふたりのオーラが激しく交錯するのだった。

そのころ団地の一室に集まってゲームをやっている少年たちの背後に、白髪の少年が現れる。

この後、チサトとヤヨイの対決がどうなったか、また白髪の少年が何をしていたのかは謎のままだ……。

邪悪なヤヨイに怒りをぶつけるチサト。もう許すことはできない

子供たちのそばに来る少年、何が目的なのか！

主な分岐ポイント

ナナとの会話

ユカリがナナを説得するときに出る選択肢。ここで「さっきの人って…orウソつかないよ→本当にアリサの声？」と選ぼう。こうすればナナはアリサに騙されたのではないとわかる。後の会話に影響するぞ。

ここでナナの誤解を解けば、ユカリもアリサを誤解しない

リルとの会話

リルとの会話でいちばん情報量を多く得るためには「信じない→信じる→どうやって止めるの？→止めて……」というように選択肢を選ぼう。ちなみに最後のお茶は必ず飲まされることになる。

逆に話を早く終わらせたいなら「信じない→信じない」と選ぼう

EPISODE 6の謎

超能力を持つチサトとアリサ

この章ではチサトとアリサが超能力を持っていることがわかる。その力はアリサよりもチサトの方が強いらしい。そして、ふたりとも特定の人物の居場所を突き止める能力を持っているようだ。これならエピソード4でストーカーに追われていたミカをチサトたちがすぐに助けに来る場面も説明がつく。

ユカリの居場所を霊感で当てるアリサ。霊を追い払うことも可能

チサトとヤヨイに至っては人間の領域を超えている

EPISODE 7

夢……？これも……？

クラブ遊びの後から耳なりに苦しめられるミカ。そして次第に夢と現実の区別がつかなくなり、ミカの精神は崩壊する……。

Noise

クラブのイベントにユカリを誘う

ミカはユカリを「LOST HIGHWAY」で行われる「ドリームパンク」というイベントに誘う。ユカリは乗り気ではなかったが、ミカについて行くことにした。

いつもはこの手の誘いに乗らないユカリだが……

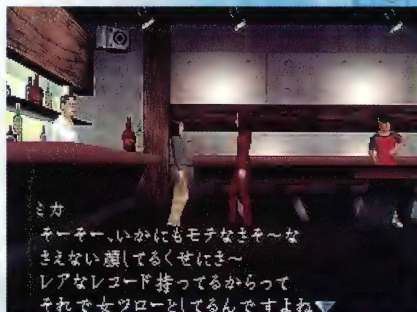
クラブで楽しむミカとユカリ

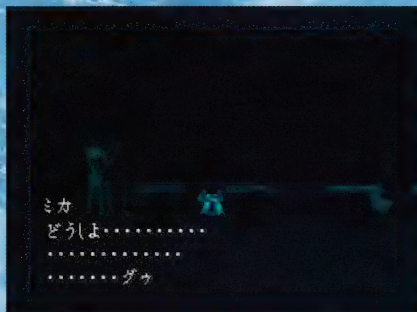
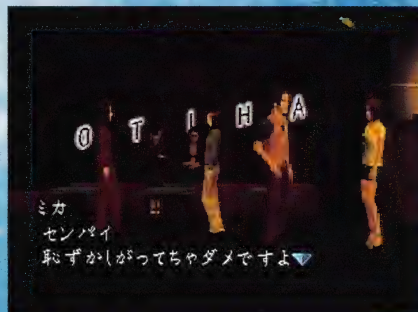
クラブのバーでミカとユカリはとりとめのない話を続ける。ダンス、音楽、カクテルなどの話題で盛り上がった後、１Ｆのイベントまっ最中のフロアに行ってみることにした。

クラブに来ている連中は誰もがマニアックな会話をしていて、ミカたちにはピンとこない。メインフロアではみんな楽しく踊っているようだ。

ミカはユカリに踊ってみませんか、と聞くがユカリはイマイチ乗りが悪い。だが、それでも踊り始めると調子が上がってきたようだ。存分に踊ったユカリはちょっと休憩を入れようと、飲み物を買いに行く。

疲れたミカの方は眠くなってしまい、座ったまま居眠りをする。

目が覚めたときにはすでにイベントは終わり、電気が消えていた。ミカはユカリを待たせていたことに気付き、急いで２Ｆのバーに行く。ユカリは気にしてなかったのでミカも安心。ふたりは満足して帰宅した。

ミカの口からウワサ話が絶えることはない

踊るのをためらうユカリ。だが踊り始めるとかなり激しい

いつのまにか寝てしまったミカ。これが悪夢の始まりだった

ノイズが耳から離れない

家に帰ったミカは、クラブの大音響を聞いていたために耳鳴りに苦しめられ、寝つくことができなかった。

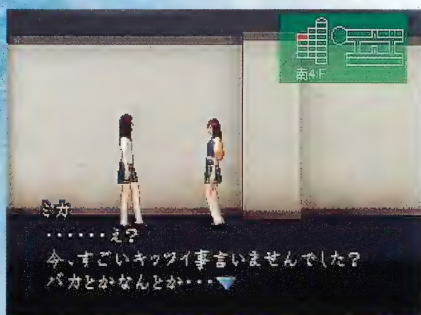
学校が始まるとさらに耳鳴りがひどくなる。まるで誰かが耳元で囁いているような錯覚を覚えるほどだ。ユカリとの会話でもミカはその不快感をぬぐうことはできない。

1時間目が終わって休み時間に、ミカはミホから体育教師の保坂と保健婦の中村が生物室で密会しているというウワサを仕入れる。

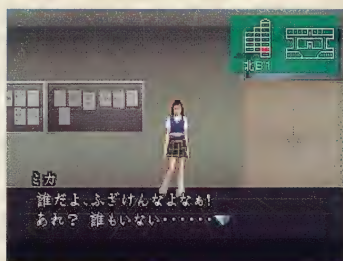
ミカはさっそくウワサを確かめに北校舎のB 1にある生物室に行く。その途中で耳鳴りのせいか、何度も人の囁き声を聞き、ミカはイラついてくる。そして生物室に来ると、ミカは誰かの死体を一瞬だけ目撃する。しかし、それは幻覚だったようで、すぐに消えてしまう。

やがて5分経ち、2時間目の始業のチャイムが鳴ったので、ミカは急いで教室へと戻ることにした。

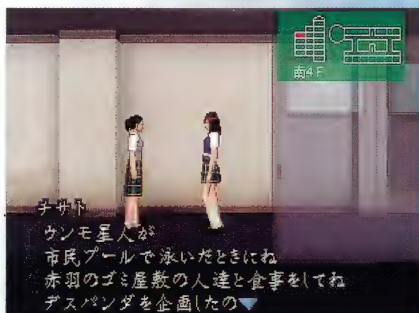
耳鳴りにうなされるミカ。いつものことだと思っていたのだが……

ユカリがミカを馬鹿にしたような声が聞こえたが、それも耳鳴りだった

休み時間にミホに話しかけると、いろいろな情報が手に入る

攻略アドバイス

5分以内に北校舎B 1にある生物室に行かないと、死体の幻覚を見ることはできない。3分経つと「岸井……」という呼び声がするので目安にしておくといいだろう。

ミカのこのリアクションが出たら3分経過を示す。急げ！

チサトの意味不明な言動

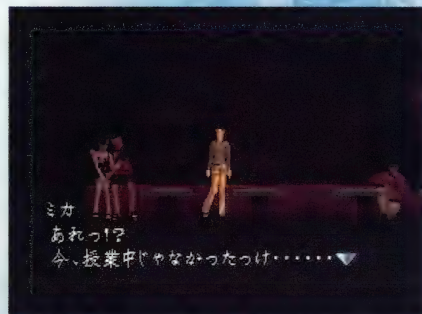
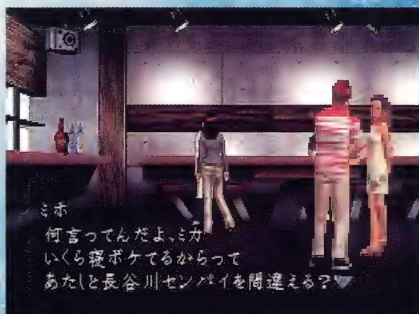
2時間目が終わると今度はミホから、チサトが霜北で詩集を売っていたと聞かされる。ミカは4Fに行きチサトに真相を聞くが、チサトは理解不能の言葉を残して去っていく。

何を言っているのかさっぱりわからない。ウンモ星人って何なの?

クラブで夢から目を覚ますミカ

ミカは3時間目に居眠りをしたはずだったが、目を覚ましてみるとそこはクラブの中だった。どうやら今見ていたのは夢だったらしい。ミカはユカリを待たせていたことに気付き、2Fのバーに行く。

しかしバーにいたのはミホだった。ミカはずっと勘違いをしていたようだ。ふたりは十分楽しんだので帰ることにしたが、ミカはミホが制服姿なのに気付いて不思議に思う。

ミカは家に着いた後も謎の耳鳴りに悩まされる。そのため長い間、寝つくことができなかった。

眠りから覚めるミカ。すべてはミカの見ていた夢だった

バーにはユカリではなくミホがいた。なぜか制服姿のままだ

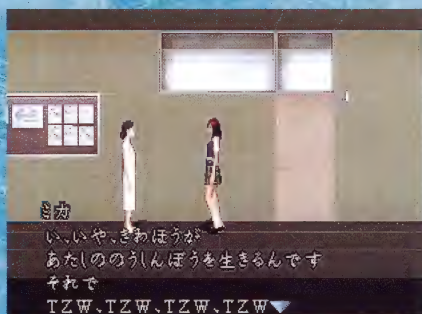
ムーンライトシンドローム用語集

【ドラムンベース】 テクノのジャンルのひとつで、ドラムとベースを強調したビートが特徴の音楽。この他のゴア、トランス、ミニマル、ガバ、ジャングル、アシッドなどもテクノのジャンル名だ。

【ゴールド】 芝浦にあったクラブの名前。ちなみにFFDは渋谷にあったクラブの名前。

【ゴア】 インド西海岸のリゾート地のゴアで流行したテクノミュージックのこと。また、最近、流行のエスニック風ファッションをゴアファッションというが、これもテクノのゴアからきている言葉だ。

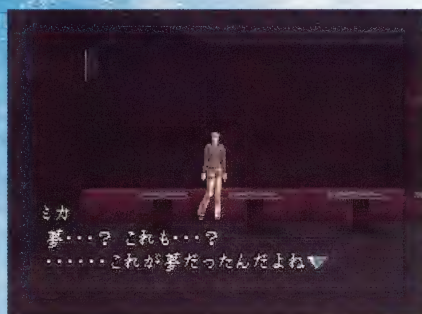
耳鳴りは頭痛となりミカを苦しめる

再びミカが目を覚ますと3時間目の授業中だった。どうやら今見ていた方が夢だったらしい。ミカは頭痛がするので休み時間に保健室に行くが、保健婦に妙なことを口走る。

まったく意味不明なことを言うミカ。全部しゃべると意識を失う

すべては白髪の少年の仕業だった！

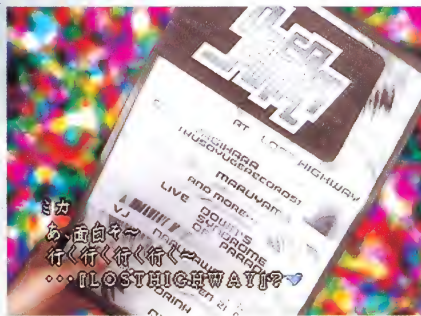
目を覚ますとそこはみたびクラブの中だった。室内は消灯され、クラブには誰もいない。もうミカはどれが現実でどれが夢かという区別はできなくなっていた。

2Fのバーへ行くと、白髪の少年がたたずんでいた。すべての出来事は、少年がミカに見せた夢だったのだ。少年はミカにはこれからいろいろな体験をしてもらうから、その前に試したのだと言う。

頭にきたミカは少年を攻撃しようとするが、そのとたん崩れ落ちてしまう。

またクラブの中。ミカはどれが夢なのかわからない

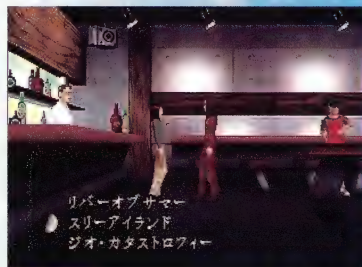
ミカは少年にチョップでお仕置きしようとするが、全然通じない

悪夢から覚めるミカ。しかし……

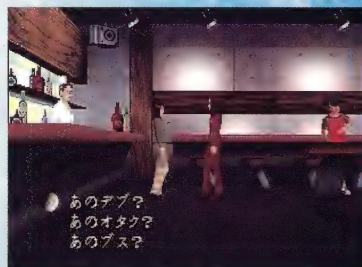
ミカが目を覚ますと自分の部屋だった。そして学校に行くとミホが「LOST HIGHWAY」のイベントに行かないかとミカを誘う。ミカも先輩たちを誘うことにした。

再びループする現実。またここから悪夢が始まるのだろうか……

主な分岐ポイント

ユカリの飲むカクテル

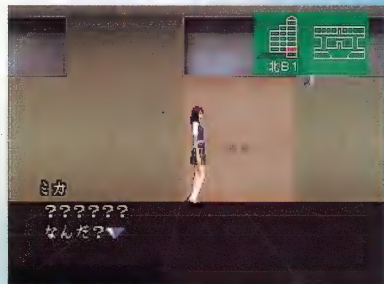
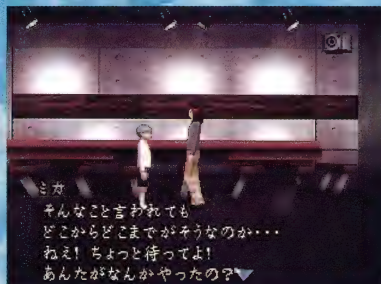
まったく重要ではないがバーでユカリが飲むカクテルの選択肢の結果を紹介。「リバースオブサマー」と「スリーアイランド」はとてもマズい。それなりに飲めるのは「ジオ・カタストロフィー」だけだ。

ユカリが吐くほどにまずいカクテル「スリーアイランド」

ユカリとの会話

ミカとユカリの会話で出る選択肢「えー、あのデブ？」と「えー、あのオタク？」と「えー、あのブス？」。ひとつずつミカは違うウワサ話をするので、全部聞くには3回プレイするしかない。

どの話題を選んでもミカは悪口を言うのだ

EPISODE7の謎

ミカに悪夢を見させた少年の予言

最後までプレイしてみるとこの章は全部ミカの夢だったことがわかる。それも白髪の少年が意図的に見せた夢だった。今回も少年が今後の予言をしているシーンがある。それは学校で生物室を覗いたときに目に入る死体。これはエピソード10の結末を暗示したシーン。運命は変えられないようだ。

生物室に入ろうとすると、一瞬だけ死体の映像が見える

「今度会うときはもっと面白いものを見せてあげるから」と少年は言う

EPISODE 8 見せてあげるよ ミカの心の中を

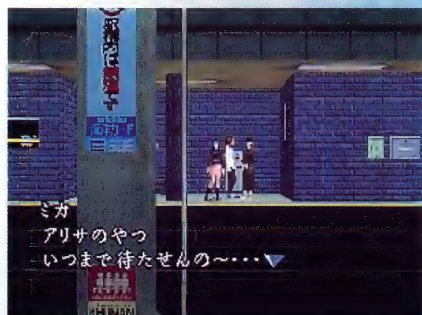
ミカは少年の力によって、人々の心の中を覗けるようになる。しかし、ミカを裏切るほどに人の心は汚れていた。そして自分の心も……。

開扉

Mind : Heart : Spirit

アリサ恒例の遅刻。待たされるミカ

駅でアリサと待ち合わせのミカ。だが、やはりアリサは遅刻のようだ。「アリサのやつ、いつまで待たせんの～」といらだつミカ。とりあえず、ジュースを買い、時間を潰す。そこに電車が入ってくるが、事故のためしばらく停車するという。
「やだな～、また自殺だったりして」
不吉な予感がするミカ。
「ミカ～。お待たせ～」
そこへアリサがやって来た。文句を言うミカを尻目に電車に乗り込むアリサ。停車中の電車はミカとアリサが乗るとタイミングよく発車した。

例によって遅刻するアリサ。ミカももう慣れっこの様子だ

ミカたちが乗り込んだ電車。だが、その行き先はなぜかバグっていた…

とりとめのないミカとアリサの会話

電車に乗り込んだミカとアリサ。そこでミカはアリサに夢の話を聞かされることになる。長々と話し続けるアリサ。話が終わると、疲れて眠ってしまう。やがてミカも睡魔に…。

車内で眠りこむふたり。はたしてこの電車の行き先はどこなのか?

ムーンライトシンドローム用語集

【ダイゴ】「ウルトラマンティガ」の、ダイゴ隊員のこと。ティガに変身する主役である。V6の長野博が演じており、アリサは彼のファンらしい。ちなみに**【GUTS】**はダイゴなどが所属する組織の名前だ。
【元気玉】「ドラゴンボール」の主人公、孫悟空の必殺技。気の玉を投げつける。
【デスラー砲】「宇宙戦艦ヤマト」の敵艦の必殺武器。なぜアリサくらいの年代でヤマトを知っているのかは謎。(マニアか?)
【SOL】「アキラ」に出てくる対地攻撃用レーザー衛星のこと。

少年、再びミカの前に現れる……

ミカが目を覚ますと、正面の座席に少年が座っていた。ミカのことを知るこの少年は、面白いものを見せてくれると言う。それは疲れきったサラリーマンの心の声だった。

少年に言われるまま耳を澄ますと、サラリーマンの心の声が聴こえる

他人の心の声を聴くミカ

他人の心を覗くことにとりつかれるミカ。少年に言われるまま、奥の車両へと進んでいく。

次の車両にいた、互いを誉め合うカップル。だが、虚飾に彩られたカップルの真実にミカは幻滅する。

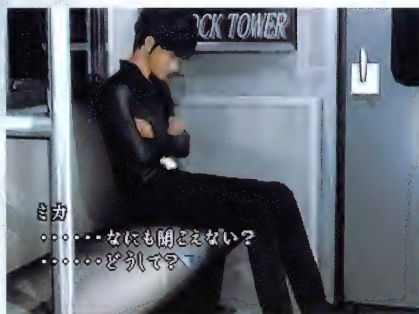
死んだ旦那に一途な老婆、自意識過剰の高校生と覗いていくミカ。

さらに奥に進むと、注目のオバタリアンが！　あまりに醜い主婦たちの心の声に、ミカは思わず結婚しない方がいいかと考えてしまう。

キレイなOLと思いきや、実はただの欲求不満の女。一見好青年だが、野心のカタマリのような男。見かけ通りバカな女たちなど、人間の偽善と嘘を見せつけられるのだった。そして、小学生の集団の心は情報に汚染されており、自分たちと変わらないことに気付く。

車両の一番奥にいたのはリョウだった。この男だけはなぜか心の声が聴こえず、ミカは動揺する……。

嘘とエゴで塗り固められたカップル。その心の声は聴くに耐えないものだ

子供たちの心は情報に溢れていた。ミカたちと同じように……

唯一、心の声が聴こえなかったリョウ。彼は何を思うのだろうか

リョウと謎の少年の会話

リョウが目を覚ますと目の前に白髪の少年とミカが座っていた。リョウは少年に関わりたくなかったが、「ミカに惹かれているんだろ？」と挑発される。

さらに少年はリョウにミカの心の中を見せてくれると言う。強引にミカの心を見せられるリョウ。そして、そこにはスミオの姿があるのだった。少年は「ぼくらはこのまま行かせてもらう」と言ってミカと共に消えた。

なぜ、ミカがスミオのことを想っていたのか、リョウは理解できずに放心状態になる。

目を覚ましたリョウ。目の前には少年とミカの姿があった

ミカの内面を見せられるリョウ。そこにはスミオの姿が！

ミカ、誘われるまま異次元の世界へ

「……あたし、どこを歩いているの」ミカは異次元の世界に来ていた。

ここでミカは人間の罪のイメージを見せられる。正義の名の下に侵略と略奪を繰り返す英雄、神の名の下に現世の富のみを集める宗教家、愛の名の下に快楽にふける男女、そして死と破壊の上にそびえる近代ビル群などがミカの心に映る。

そして少年はミカを光の奥に誘う。とまどうミカの前にリョウが現れる。「行くな！　そいつは悪魔の化身だ」リョウは止めようとするが、ミカは光の中へ向かって歩き出した。

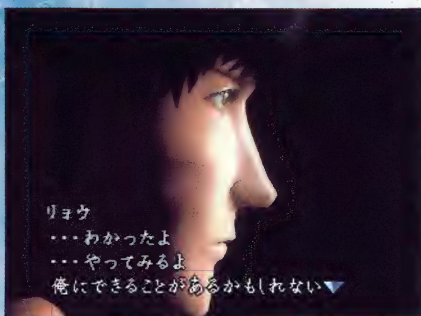
人の罪のイメージを見せられるミカ。それはミカには重すぎるものだった

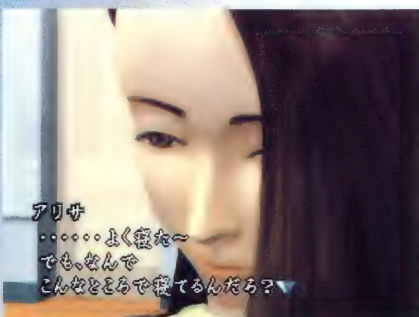
リョウの制止もむなしく、ミカは光の中へ消えていった……！

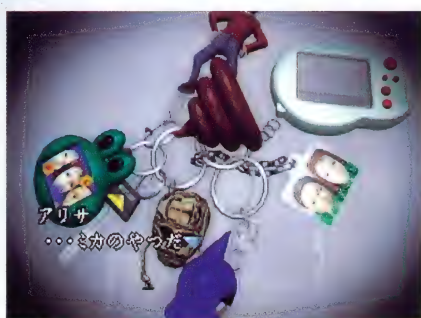
ミカを追うべきか悩むリョウ

「どうする……」とつぶやくリョウ。
　少年と共に光の中に消えたミカ。その姿を見たリョウは苦悩していた。助けるべきか、また、助ける理由が自分の中にあるのかどうかを……
　少年に見せられたミカの内面のイメージがリョウによみがえる。官能のミカ、もだえるミカ、絶頂のミカ、そして、スミオの姿……。
「おれにできることって……なんだ。この女を守ること……？」
　リョウの中でよみがえるキョウコのイメージ。覚悟を決めたリョウは光の中へ突入していくのだった。

スミオとミカのイメージに動揺させられるリョウ

しかし、リョウは覚悟を決め、光の中へと進むのだった

アリサ目覚める。だが、ミカは……

「……なんでこんなところで寝てるんだろ？」ようやく目覚めたアリサ。そして、ミカがいないことに気付く。電車は始発の駅から動いていない。あれは幻だったのだろうか……。
　車内を探すが、やはりミカはいない。だが、アリサは先頭車両で光るものを発見する。それはミカのキーホルダーだった。なぜここに落ちているのかは、アリサには知るよしもなかった……。
　ホームのアナウンスは、霜北行きの下り電車が事故のため1時間40分遅れで発車することを告げる。

寝ぼけているアリサは、自分がどこで寝ていたかも忘れていた

先頭車両に落ちていたミカのキーホルダー。なぜ、こんなところに……

主な分岐ポイント

自動販売機での選択

エピソードの最初、遅刻したアリサをミカが待つシーン。このときホームにある自動販売機にミカを近づけよう。ジュースを買うことができるのだ。どのジュースがおいしいかは、自分で試してみよう。

どのジュースがおいしいのかは、飲んだミカにしかわからない

白髪の少年との会話

ミカが少年と一緒に行くかどうかの選択肢。このときに例え「行かない」を選んだとしても、結局は行くことになる。少年を怒らせたくなければ、素直に「行く」の選択肢を選んでおこう。

重要な分岐のように思えるが、どちらを選んでも同じことだ

EPISODE 8の謎

少年がアリサに語る言葉の意味

ミカとリョウが光の中へ旅立った後、少年は眠っているアリサに語りかける。

そこで少年は、リョウとミカのキューピッド役になったと言っている。その行動に何の意味があるのかは不明。だが、どうやら少年が執着しているのはミカではなく、リョウの方だと読み取ることができるのだが……。

リョウは少年が何者かを知っているようだが……

ついに少年はこの章でミカを現実の世界から連れ去ってしまう

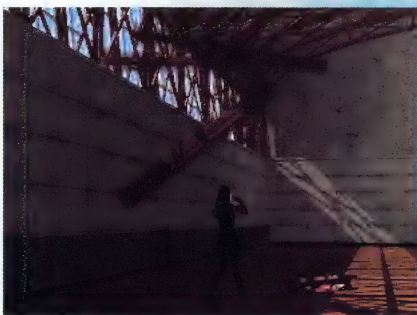
EPISODE 9

ミカが行方不明？

ミカの失踪と同時に学校内で起こる連続殺人。犯人は一体誰なのか……？　ユカリたちは深夜の校舎で驚愕の事実を目撃する。

Genocide

日曜の学校で最初の犠牲者が……

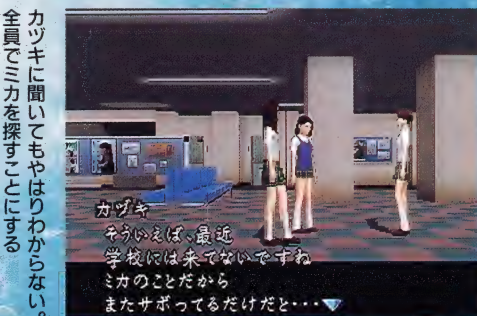
日曜の雛代高校で行われた旧体育館の解体工事。その工事中に不幸な事故が起こる。ひとりの生徒が落ちてきた鉄骨の下敷きとなって死亡したのだ。

なぜひとりで旧体育館などにいたのか、この事故には謎が多い

失踪したミカの手がかりを探す

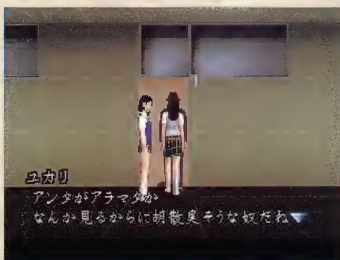
電車の中ではぐれたミカは依然行方不明のままだった。心配するアリサはユカリに相談をする。ユカリはミカの自宅に電話してみるが、両親が海外旅行に行ってしまったため誰もいなかった。

ユカリたちはミカの同級生たちやカヅキから心当たりを探る。しかし、誰もミカのいる場所を知らない。

ユカリたちは手分けしてミカ失踪の手がかりを探すことにした。アリサはミカの家へ、ユカリとカヅキはラクロス部の部室、そしてミカの教室を調べてみることにした。

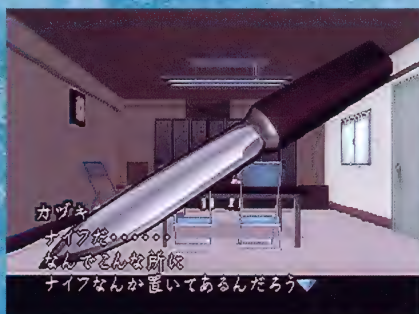
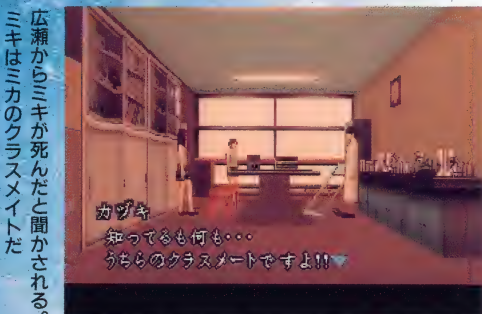
電話をかけるが、留守番電話になっていた。ミカは自宅にはいない

カヅキに聞いてもやはりわからない。全員でミカを探すことにする

攻略アドバイス

この章は全章の中でも一番長いので、要所要所でアラマタに会ってセーブしておこう。アラマタは北校舎Ｂ１の保健室の前にいるが、夜になるといなくなってしまうので注意。

アラマタは「奏遇」の章と同じくこの場所にいる

ミカのロッカーからナイフを発見

ユカリとカヅキはまずラクロス部の部室を捜索することにした。ミカのロッカーの中を覗いてみると怪しげなナイフを発見する。今度は教室に戻りミカの机を調べてみた。すると手帳が出てきたが、スケジュールを見ても特に変わった様子はない。

しかし、同級生たちから、この間の旧体育館の工事で事故が起こり、生徒が死亡したことを聞く。ユカリたちは事件のことを知っている広瀬に話を聞くため、化学室に行った。広瀬の話では、死んだのは2年の香坂ミキという生徒らしい。

このナイフはエピソード5でミカが持っていたものと同じものだ

広瀬からミキが死んだと聞かされる。ミキはミカのクラスメイトだ

カヅキを殺した犯人はミカ？

ミカの家を調べていたアリサから連絡が入るが、やはり誰もいないらしい。ここでいったん捜索を中断し、カヅキは部活に出ることにする。

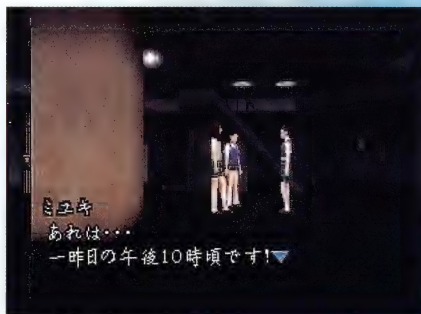
その夜、部活が終わり校門から出たカヅキだが、カバンを忘れたことに気づく。広瀬に話を聞きに行ったときに置き忘れたのを思い出し、化学室に入った。

そのときカヅキの背後でナイフが振り降ろされた。何度も刺されるカヅキ。薄れる意識の中で犯人を見るが、信じられないことにその姿はミカだった。

カヅキを殺害したのはミカなのか、それとも……

カヅキはさらに校舎から転落して死亡。ユカリたちはショックを受ける

一昨日にミカを見たというミユキ

翌日、ユカリはアリサから深夜の学校でミカを見た人がいるという情報を得る。なんでも天体観測部のミユキが見たというので、ふたりは真相を確かめることにした。

一昨日の午後10時にミカを見たというミユキ。なぜそんな時間に？

ミユキの変死体。アリサが危ない！

次の日、ユカリはアリサの教室を訊ねるが、昼休みに天文台に行ったまま行方不明らしい。ユカリも天文台へと行ってみるが、中は薄暗くて人の気配はない。

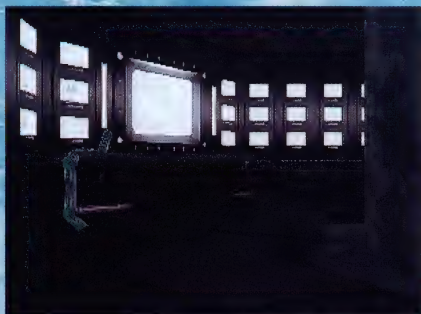
天文台の奥に進んでみると血痕を発見する。それも滴り落ちているようだ。ハッとして見上げてみると、そこにはミユキの変死体があった。

ユカリは急いで校舎に戻り、そこでアリサと会う。アリサは屋上で寝ていたらしい。ユカリがアリサにミユキの死を告げたとき、天井裏では監視カメラがふたりを写していた。

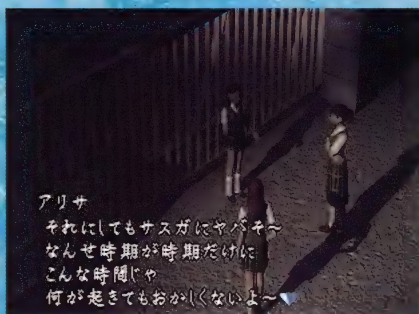
巨大な天体望遠鏡の駆動部に巻き込まれたミユキの死体

ふたりの会話を誰かが監視しているようだ。一体何のために……？

謎の人物からの呼び出し

ミカが行方不明になってから２週間が経つ。ユカリたちは捜索を続けていたが、あまり進展は見られない。そんなある日、ミホのもとに謎の人物から電話がかかってくる。

このモニターを見つめている人物がミホに電話をかけた!?

ミホからの連絡を受けて学校へ

ミホが電話に出るとフミコの母からだった。なんでもフミコが学校からまだ帰ってこないらしい。ミホはフミコを探すためにアリサたちを呼び出し、深夜の学校へ行く。

ミホの呼びかけに3人が集まったが、肝心のミホの姿がない

手分けをしてフミコの消息を探る

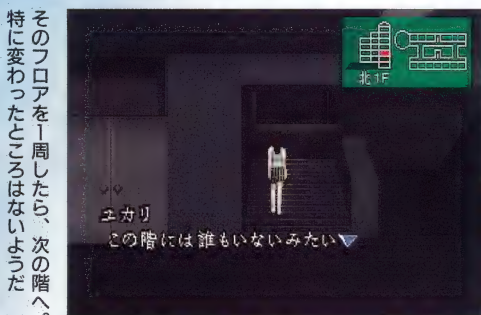
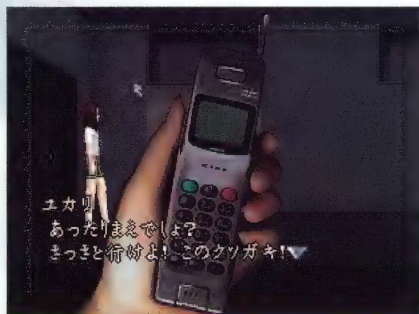
ユカリとアリサとチサトはミホが先に行ったと思い、校舎の中に入る。校舎の中は凶悪な事件が多発しているためか、警察官が巡回していた。ユカリたちは警察官に見つからないように、手分けをして調べることにした。

ユカリは1Fから5Fを、チサトは校舎外、アリサは地下を調べることにして、3人は別れた。

ユカリは1〜4Fまで調べるが異常はない。ここまできたので立ち入り禁止の立て札を無視して校長室のある5Fに行くことにする。

校長室には鍵がかかっていて入れない。誰もいないようだ。ユカリはピッチでアリサの状況を聞く。しかし、アリサは恐がって全然調べていないらしい。

チサトの方にも異常はなかったが、広瀬が宿直の時いつも事件が起きているという重大な事実に気がついた。ユカリはアリサの所へと急ぐ。

校舎の中には警察官がいた。3人はげた箱の陰に隠れてやり過ごす

そのフロアを1周したら、次の階へ。特に変わったところはないようだ

全然調べていないアリサに腹を立てるユカリ

生物室で倒れているミホを発見！

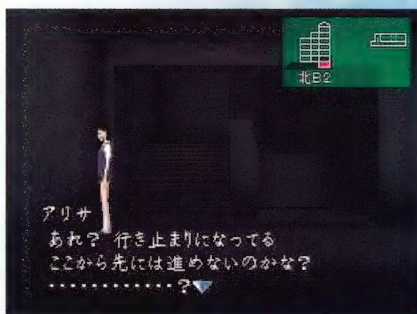
ユカリに怒られたアリサはシブシブと校舎を調べ始める。地下通路でアリサは行き止まりの壁が怪しいと思うが、その他に異常は見当たらないようだ。

地下から１Ｆに上がったときにアリサは生物室から「ドサッ」という不審な物音を聞く。

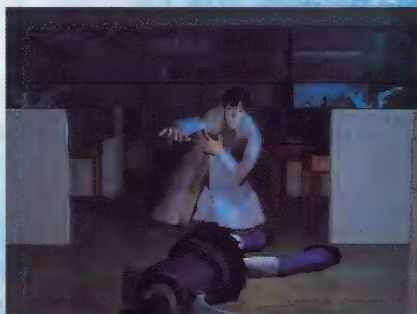
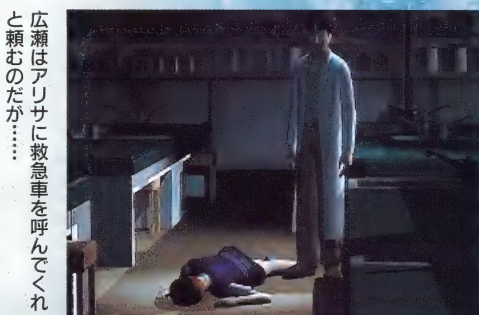
アリサが生物室に入るとそこには宿直の広瀬がいた。かたわらにはミホが倒れている。死んでいるようだ。

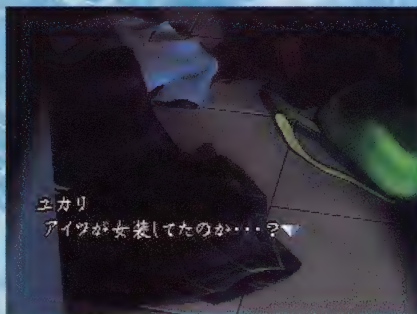
広瀬は救急車を呼んでくれと言うので、アリサは呼びに行こうとする。だが、「ちょっと待て！」と広瀬は言ってアリサに近づいてきた。

そのとき、銃を構えた警官が飛び込んでくる。「動くな」と警告をするが、広瀬は止まらない。

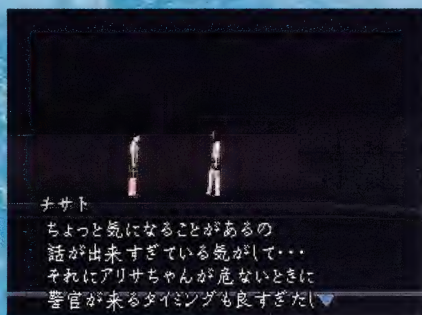
制止を無視した広瀬に銃弾が浴びせられる。広瀬は心臓を打ち抜かれて、床に倒れ込んだ。広瀬は死ぬ間際まで「俺は違う……」と呟いていたのだが……。

アリサは行き止まりの先に何かがあるように感じる

広瀬はアリサに救急車を呼んでくれと頼むのだが……

警官の銃弾に倒される広瀬。ミホを殺したのは彼なのだろうか？

広瀬がミカに変装していた……？

銃声を聞いてユカリとチサトが入って来た。チサトは準備室で女生徒の制服と女性のカツラ、そしてミカと同じリュックを見つける。広瀬が女装して生徒を襲っていたのか!?

広瀬の変装グッズ。カツキやミホを殺害したのは彼の仕業だったのか？

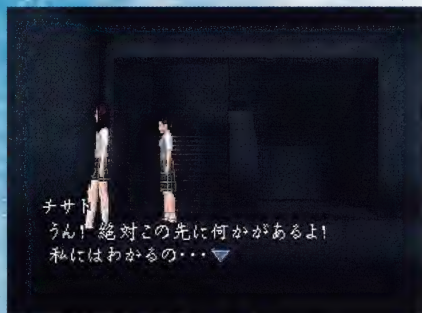
まだ謎は解明されていない！

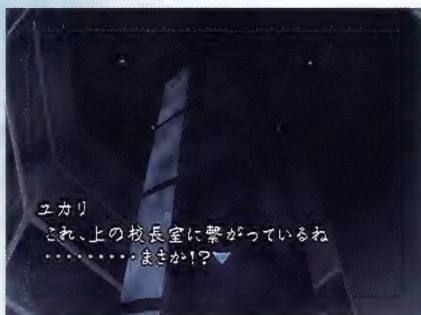
気絶したアリサを念のため救急車で運ばせる。事件は解決したかのように見えたが、チサトはもう一度引き返そうと言う。まだあの学校には秘密があると言うのだ。

チサトには何か引っかかることがあるようだが……

ロビーにある大理石の柱の謎

チサトもアリサが怪しいと思った地下通路の壁が気になっていた。この上の階はちゃんとあるのに、なぜここが行き止まりになっているのだろうか？　チサトはこの壁の向こうで何か恐ろしいものが待ち受けているのだと言う。

ふたりは行き止まりの壁の上に当たる受付ロビーの所を調べて見ることにした。巨大な大理石の支柱を見上げると、校長室のある場所につながっているようだった。

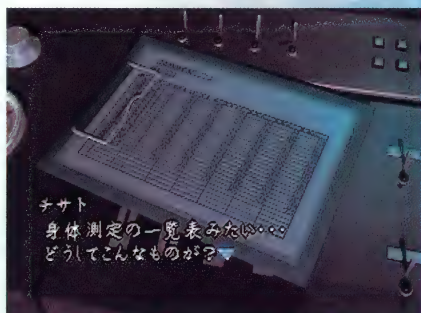
そこで５Ｆに上がり実際に校長室を調べてみることにする。

やはりこの壁の向こうに何かがあると思うチサト

ロビーの大理石を見上げてみると、校長室につながっているようだ

隠されたエレベーターを発見！

校長室の扉はなぜかカギがかかっていなかった。大理石の支柱を調べると、何かのスイッチのようなものを発見する。押してみると大理石の中からエレベーターが出現した！

大理石の中からエレベーターが！おそるおそる乗ってみることに

校舎全体を監視するモニター室

エレベーターは上に上がり、屋根裏の部屋に着いた。その部屋にはたくさんのモニターがあり、校舎内を写し出していた。そして、モニターのそばには身体測定の一覧表が……。

ミカたちの学年の身体測定の記録。一体誰が何のために使うのか？

死亡した生徒の人間標本が！

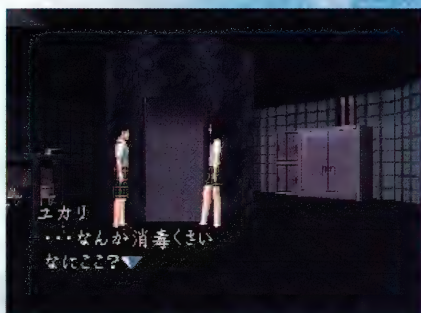
ユカリたちはエレベーターに乗って下へ、あの壁の向こう側にある地下へと降りることにする。エレベーターを降りるとそこは病院の手術室のような部屋だった。あたりには消毒液の匂いが充満している。

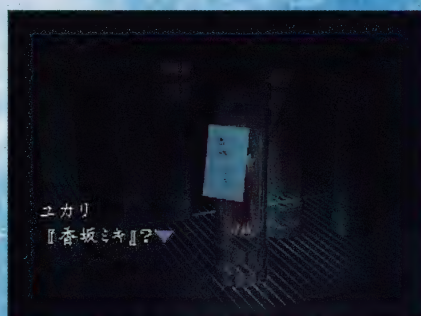
ユカリは冷蔵庫のようなものを見つけて思わず開けてみた。

「なに、なんなのコレ！」

一瞬ユカリは何が中に入っていたのかわからなかった。よく見るといくつもの容器の中には人間の肉体の一部が入っていたのだ！　そして一番前にある容器には「香坂ミキ」という名前が書いてあった。

チサトの方は巨大な容器に入ったつぎはぎだらけの人間の死体を見つけ、大きな悲鳴を上げる。その死体はスミオと焼死したキミカだった。黒こげのはずのキミカの死体が元の姿に復元されていたのだ。

ふたりはこの場所は危ないと感じて、走ってエレベーターへ逃げ込む。

まるで手術室のような部屋。学校の中にこんな部屋があるなんて……。

冷蔵庫の中には、旧体育館の事故で死んだミキの死体の一部が！

巨大な容器の中にはキミカの死体。皮膚を縫い合わせて復元してある

校長の出現。ユカリたちの危機

校長室へ戻ってきたユカリたちだが、いつのまにかカギがかけられていて部屋から出ることができない。そしてエレベーターが動きだし、ついに校長が姿を現した！

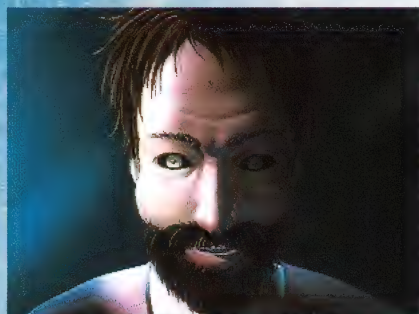
誰もいないはずの校舎に放送が響きわたる。すべて校長の罠だった

崩落する床。校長の壮絶な最期

おびえるユカリとチサトを前にして、校長は自分の猟奇的な殺人を語り始めた。月明かりに照らされたその表情はいつもの穏和なものから、凶悪なものへと変わっていた。

「私のコレクションを見たかね…。なかなかのシロモノだろう。あれだけのパーツを集めるのに一苦労したがね……。安心したまえ、何も恐がることはない。魂を肉体から解放してやろうというのだ。真の自由を得るためには肉体の中では窮屈すぎる。何も恐がることはないのだ。喜びたまえ。君たちは私のすばらしい芸術作品の一部となり、生まれ変わるのだ！」

そう言うと校長は凶器を取り出して一歩一歩近づいてくる。絶体絶命のユカリとチサト。

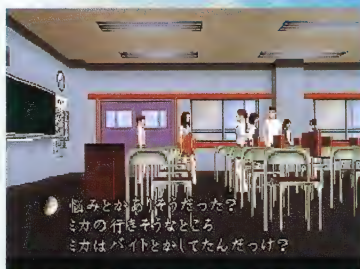
しかし、そのとき突然大理石にヒビが入り、床が崩れ落ちていく。校長も床の崩落に巻き込まれて地面に激突したのだった……！

満月とともに顔つきが変わる校長。もはや人間ではない

追いつめられたユカリとチサト。もうどうすることもできない⁉

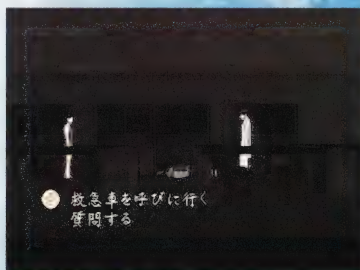
これも偶然なのか床が抜けて、校長が絶叫しながらロビーに激突する

主な分岐ポイント

同級生たちとの会話

ミカの失踪について同級生たちから情報収集するときの選択肢。「悩みとかありそうだった？」、「ミカの行きそうなところ」、「ミカはバイトとかしていたんだっけ？」のどれを選んでも残り全部を聞ける。

このときに出る選択肢は後で全部選ぶことができる

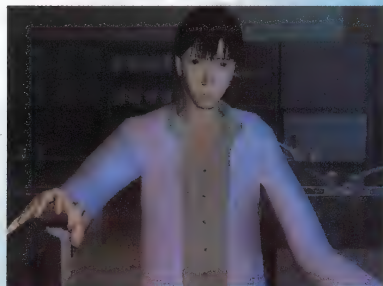
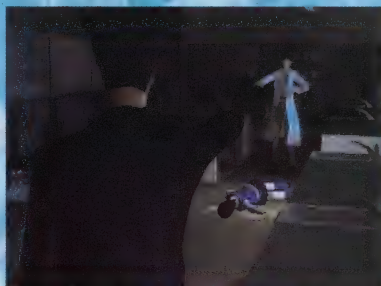
アリサと広瀬の会話

アリサが広瀬を発見したときに出る選択肢。「救急車を呼びに行く」、「質問する」のどちらを選んでも、広瀬から襲われることになってしまう。どちらかといえば質問した方が広瀬の言い訳が聞けるのでいい。

質問してみると、広瀬がいくらか言い訳をしてくれるぞ

EPISODE 9の謎

広瀬は共犯だったのか？

学校で起きた一連の殺人事件は校長が犯人だった。校長は生徒の死体を集めるのが趣味という変態。広瀬を使って生徒を殺し死体を集めていたらしい。

だが、広瀬が共犯者だという確実な証拠はない。ひょっとしたらカヅキを殺したのは校長で、宿直の広瀬は本当に偶然通りかかっただけかもしれない。

広瀬は本当にアリサを襲おうとしていたのだろうか？

広瀬を一撃で射殺していることから、警官こそ校長の手下なのかも

朧月夜 エピローグ

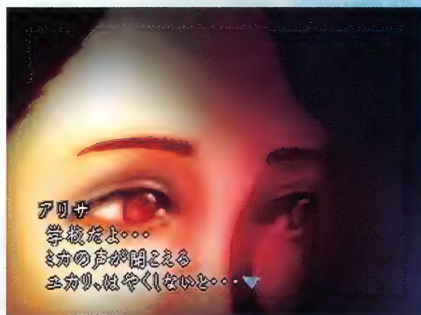
EPISODE 10

できるのか、俺に……？

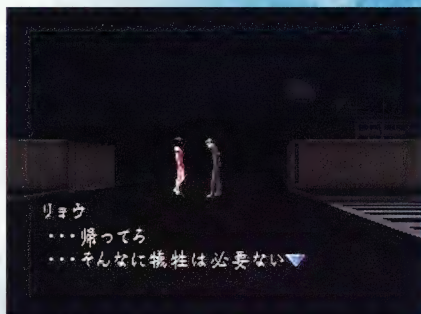
突然、ミカの気配が戻る。ユカリとチサトとアリサ、そしてリョウも決死の覚悟で校舎へ。今まさに少年との対決が始まろうとしていた。

Lunatic

ミカが学校に戻ってきた!?

チサトはミカがすぐ近くまで、学校の中に来ていることを感じとっていた。ユカリも再び、校舎の中へ戻ろうと言う。だが、今度は全員が死んでしまうほど危険な予感がした。

広瀬と校長は死に、事件は解決したかに思えたのだが……

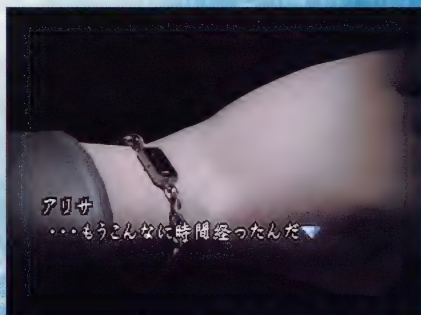
ミカを守るために校舎に入るリョウ

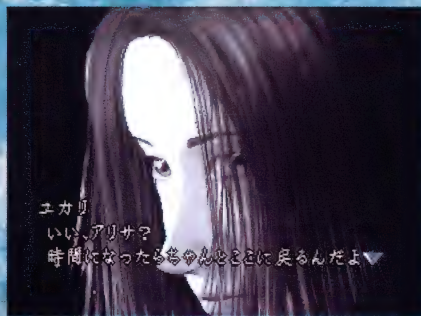
ミカと共にこの世の果てに飛ばされていたリョウが現世に戻ってきた。そこへルミもやってくる。リョウは、ルミは死ぬべき人間ではないと言い残し、ひとりで校舎の中へ入る。

リョウとミカのことを心配するルミ。意外といいヤツかも

アリサ校舎を探索。集合時間に……

病院から抜け出してきたアリサは校舎を探索していた。５階にミカの気配が戻ったことに気付くが、近づいてみるとまた消えてしまう。そのときアリサの腕時計のアラーム音が鳴る。

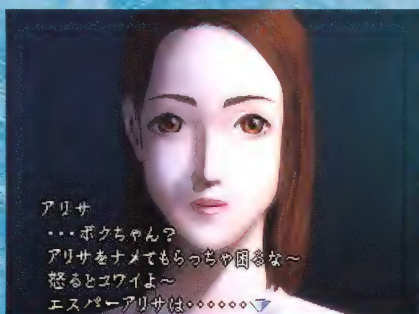
……数十分前、ロビーに集まったユカリたちは、手分けをしてミカを探すことにした。そしてみんなの時計にアラームをセットして、時間がきたらロビーに戻ることを約束していたのだった。

アリサはその約束を思い出し、階段を降りることにした。

誰もいない校舎に腕時計のアラーム音が鳴り響く

校舎再探索の前に、みんなで集合時間を決めておいた

少年に命を奪われるアリサ

ロビーへ戻ろうとしたアリサに白髪の少年が声をかける。少年はミカを探すのはやめろと忠告するが、アリサは屈服しない。逆にアリサはミカの居場所を言わせようとするが、少年は聞く耳を持たず、ついに強行手段に出た。

「グシャ……」

なにかが潰れるような鈍い音が校舎に響いた。少年はアリサの首を飛ばしてしまったのだ。首を失ったアリサの体は地面に崩れ落ちた……。少年はアリサの命を奪うと、再び暗闇の中に姿を消した。

少年に食い下がるアリサ。「これでもエスパー代表なんだから!」

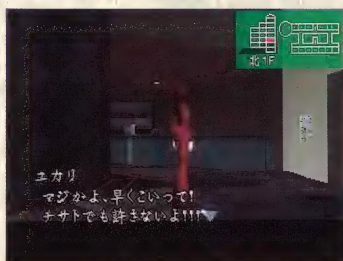
首を飛ばされてしまったアリサ。少年の力は計り知れない

遅れているチサトの腕時計

約束の時刻にロビーにいたのはユカリだけだった。一方、チサトの腕時計がアラームを鳴らす。だが、その時計は遅れていたのだ。チサトはそのことに気づき、ロビーへと急ぐ。

ひとりで待つユカリ。チサトの遅れが危機を招く

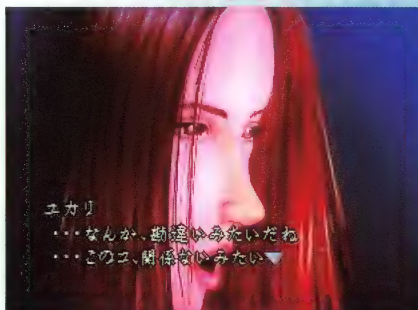
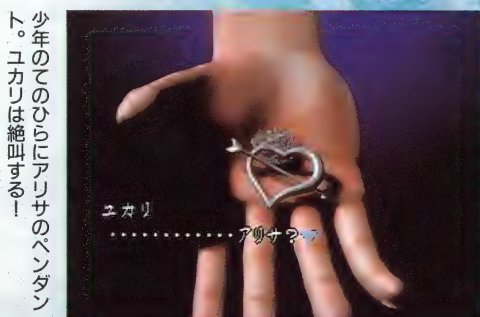
攻略アドバイス

ユカリがロビーで待つシーンでは、一定時間が経たないと物語は進行しない。外に出ようとしてもカギがかかっていて出られないので、1分くらいそこで待っていよう。

ドタバタ歩き回っても結果は同じ。おとなしく待とう

気を失ってしまうユカリ

少年がユカリの目の前に現れる。そのときチサトが駆けつけ、その少年がミカを連れて行ったとユカリに説明するが、すでに遅かった。

少年はふたりの所へ歩いてくる。ユカリは金縛りにあって一歩も動けない。少年はユカリに向かって手を差し出した。その手に握られていたのはハート型のペンダント……アリサが身につけていたものだ。

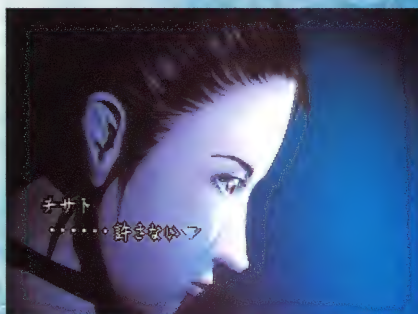
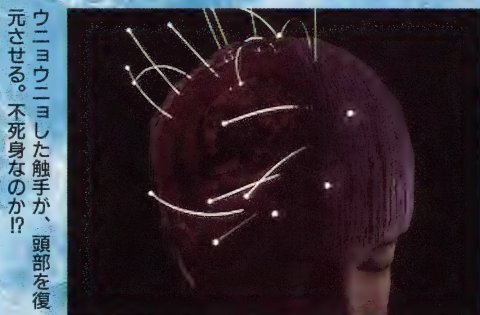
アリサの死を悟ったユカリは意識を失う。心を失ったユカリは機械仕掛けの人形のように、どこかへ歩いて行ってしまう。

ユカリは少年と出会うのが初めてなので、心を許してしまう

少年のてのひらにアリサのペンダント。ユカリは絶叫する！

少年とチサト。因縁の対決

ユカリの心を破壊した少年に、チサトは激怒する。チサトは全神経を集中して少年に攻撃を開始した。

次の瞬間、人の肉体がそげ落ちる鈍い音が響く。

少年の頭は半分だけ切り落とされていた。しかし、頭の中から触手のようなものが出てきて、一瞬で傷を治療してしまう。少年は無傷のままだ。チサトの決死の攻撃は失敗に終わる。チサトは首を落とされて、地面に倒れていた……。

チサトを始末した少年は、ユカリにトドメを刺すために後を追う。

チサトの怒りが最高潮に達し、少年を攻撃するが……

ウニョウニョした触手が、頭部を復元させる。不死身なのか!?

ユカリも少年によって絶命する

意識を失ったユカリは昇降口のドアを開けようとする。しかし、開かない。背後から少年の笑い声が聞こえる。少年はうつろに動いているユカリの首を飛ばし、命を奪った！

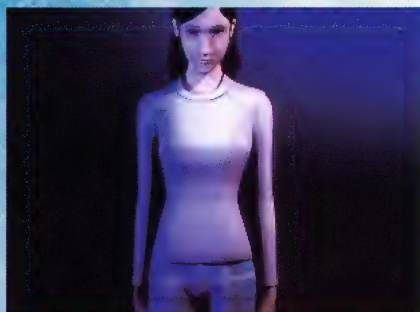
首を飛ばされたユカリの死体。ユカリまでも殺されてしまった……

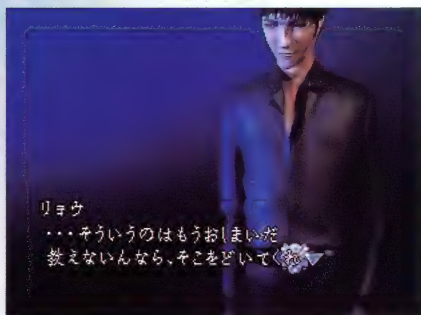
リョウをひき止めようとするヤヨイ

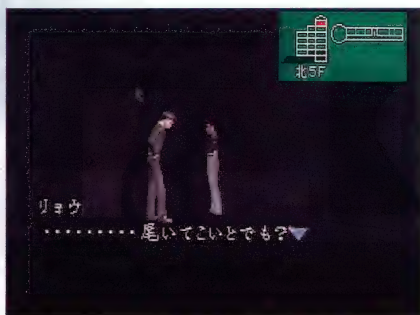
校舎へと入るリョウ。昇降口でユカリの死体を見つける。すでにアリサ、チサト、ユカリは少年によって殺されてしまった。

リョウは校舎の中でヤヨイと出会う。リョウはヤヨイに少年の居場所を聞くが、答えてくれない。

「……知らない。知っていても教えられない。もう誰にも止められないから。だからお願い、この先には行かないで……」

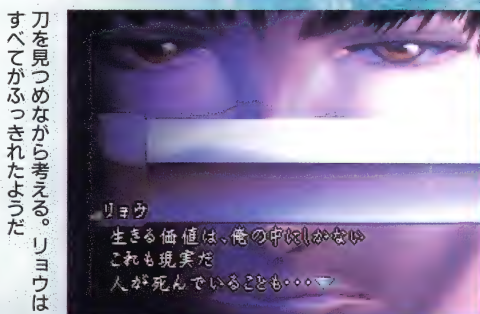
リョウを愛するヤヨイは、少年と戦うのをやめさせようとする。だが、止めることはできなかった。

リョウを説得するヤヨイ。少年の恐ろしさは彼女がよく知っている

だが、リョウはミカを守ると誓ったため先に進む

幽体離脱をするチサト

そのころロビーで異変が起こる。チサトの死体から幽体が出て、動き出したのだ。チサトの幽体はリョウに接触すると、少年のいる場所に案内するように歩いていく。

肉体は死滅しても、まだチサトの心は生きていた

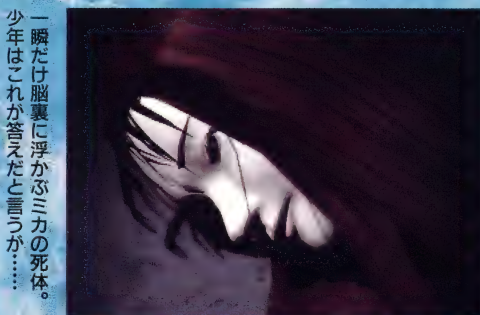
最後の対決の前にリョウが悟る

　チサトはリョウを校長室に導く。リョウは校長室に置いてあった日本刀を手に取った。
「……あなたの役割よ。終わらせるのよ。ピリオドをうって……」
とチサトの幽体は言う。
　刀を手にしてリョウは考え、そしてすべてを悟る。
「全部、俺自身のことだったのか、この人もミカのためじゃなく、自分のために……生きる価値は俺の中にしかない、これも現実だ」
　リョウは刀を握りしめ、少年を倒すことを決意する。

リョウに語りかけるチサト。少年を倒せるのはリョウしかいない

刀を見つめながら考える。リョウはすべてがふっきれたようだ

悪の化身である少年を倒す

「……どうにもならないよ。すべてをコントロールしているのはぼくだから……表面はやさしいけど、実は最も厳しいんだよ。甘くみてもらっちゃ困るよ」と少年は言う。
　リョウは少年のセリフに耳を貸さずに、日本刀を振り降ろした。次々に切り刻まれていく少年。だが、少年はしゃべるのをやめようとしない。
「ぼくが全部ブチ壊してやるから、きれいさっぱりと、後も残らないようにね」
　だが、リョウはその言葉を無視し、少年が息絶えるまで攻撃を続けた。

次々と切り刻まれるが、少年の言葉は途絶えることはない

一瞬だけ脳裏に浮かぶミカの死体。少年はこれが答えだと言うが……

この世の果てでの再会

少年を倒したリョウはまた幻覚を見ていた。そこにはヤヨイとスミオとキョウコがたたずんでいた。

「これからはずっと一緒にいられるから……リョウも平気でしょ？」とヤヨイが言う。

「……よかったと思っているよ。キミに執着してきて。わからないか、まだ……。それも意味を変えた愛の形だよ。人間愛とかいった壮大な嘘ではない普遍の愛だよ。……じゃなきゃ、死ねるのかい？　人の為にさ」とスミオは言う。

「……私の死は無駄なものではなくて、意義がある……その意義はあなたなの、リョウ。あなたがいるからこそ私が存在している。……強がる必要はもうない。いいんだよもう。解放してあげる」とキョウコは言う。

リョウの中では今までのすべてのわだかまりが消え去った。そして、ようやく本当にミカを迎えに行けるのだ、と思った。

この世界では別人のようなヤヨイ。凶悪な面影はない

今までのリョウを見ていたかのように語り出すスミオ

リョウにかかっていた重荷を降ろそうとキョウコは話しかける

少年に別れを告げるヤヨイ

地面に倒れている少年の死体。切り刻まれているのではなく、自分で剣を突き刺したような格好だ。

ヤヨイは「可哀相なコ……ごめんね……」と言ってその場を去った。

日本刀を自らの腹に突き刺した少年。すでに死んでいるようだ

ミカを抱きしめるリョウだが…

リョウはミカを迎えに行くために、土手の上を走りだした。その姿にはかつての暗い雰囲気はない。やがて陽が登り、土手の向こうからミカが歩みよってくる。リョウはミカを力強く抱きしめた。

……場面が変わり、リョウの家を訪れようとするルミ。部屋の中に入るとリョウがソファに座ってＴＶを見ているようだった。リョウの肩を叩くルミ。だが、リョウは答えない。リョウの手から何かが入った紙袋が床に転がり落ちる。ＴＶ画面ではこの世の果てにいるミカが笑っていた。

やっとミカに出会えたリョウ。これでハッピーエンドだと思ったが……

リョウの見つめるTVの中にいるミカ……

EPISODE 10の謎

衝撃のラストシーンの一考察

ラストシーンのリョウはキョウコの首を持ったまま気絶している。これは第２章でスミオから紙袋を渡されたときのままだ。あの場面以降はすべてリョウの内面の葛藤だったのだろうか。

また、少年との戦いで実はリョウは敗北し、魂を抜かれてしまったという結末も考えられる。いろいろな解釈ができるが、エンディングの意味を決めるのは、プレイヤー自身なのだろう。

第2章のこの場面から、ずっと夢を見ていたのか……？

またはリョウはこの世界に閉じ込められてしまったのだろうか？

IN-YAKU

語られなかった物語／EPISODE X

没エピソードを完全掲載

今、明らかになるキョウコの死の真実

ゲームには収録されなかったエピソード「陰約」。「夢題」の初期バージョンとも言える話だ。よって多少、本編とは食い違う点がある

SCENE 1

突然のキョウコの死!! そのときリョウは……

スミオ、そしてキョウコの乗る２台のバイクは、麗月峠を爆走していた。やがて、カーブにさしかかり、突如速度を上げるキョウコのバイク。

「なに？　キョウコ！」とスミオは驚く。キョウコは自分でヘルメットを脱ぎ、カーブへと突入した。

「これは復讐よ……」

そう呟いたキョウコのバイクは、カーブから現れた大型バスに激突した。

「不思議と悲しくない……。自分の神経回路がどうにかなったのだろうか？」

突然のキョウコの死を知らされるが、意外なほど冷静なリョウ。そんな自分自身に腹立たしささえ覚えていた。

そして、リョウは事故現場の麗月峠にバイクを走らせるのだった。

SCENE 2

リョウ事故現場へ。白髪の少年との遭遇

報道陣が溢れ返る麗月峠。キョウコのミステリアスな死はマスコミの格好のネタになっていた。記者の群れから解放されたリョウは、遺体の元へ。

遺体の確認を躊躇するリョウ。そこに突然、白髪の少年が現れる。少年はリョウを弱虫男と罵り、空に消える。

キョウコの事故を生々しく報道するニュース番組……

そして、リョウは焼けただれたキョウコの幻を見る。接近してくるキョウコ。峠にリョウの絶叫がコダマした。

SCENE 3

キョウコの事故に少なからずショックを受けるミカ

ミカそっくりだった先輩、キョウコの事故死は雛代高校にまで波紋を呼んだ。少なからずショックを受け、何となくテンションの上がらないミカ。さらに彼氏であるスミオが、キョウコと付き合っていたことを知ってしまう。
そんなミカの気持ちを察してか、友人のキミカがドライブに誘う。事故のあった麗月峠に行こうというのだ。ミカはしぶっていたが、キミカの勢いに押されてＯＫしてしまうのだった。
放課後、キミカは舎弟のスズキが運転するアルファロメオでミカのマンションを訪れた。最初は乗り気でないミカだったが、峠に向かう前に寄ったムーンブリッジからの景色を見て大感激。
まだ、このドライブの恐ろしさに全く気づいていないミカであった……。

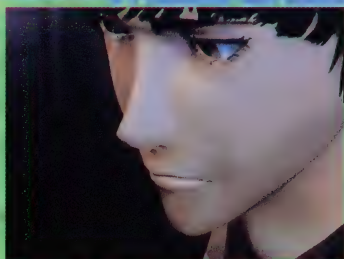
SCENE 4

リョウの元へ行くルミ。そして衝撃の告白

「リョウ。起きて、リョウ……」
ソファで寝ていたリョウを起こす声。それは取り乱した様子のルミだった。
「お兄ちゃんが……。お兄ちゃんが……」
スミオに何かあったのか……。問いただしても、ルミは答えようとしない。
「リョウ、抱いて……」
やはり様子のおかしいルミ。リョウが拒むとルミは床に崩れ落ちた。
「誰のせいでこうなったのよ！」
リョウを非難するルミ。スミオが死ぬと言って家を出たと言う。リョウ自身がキョウコを想うように、ルミもスミオのことを想っていたのだ。
複雑な四角関係。だが、この関係にピリオドを打ったのは、キョウコの死だった。リョウがキョウコを受け止められなかったために……。

SCENE 5

死を選ぼうとするスミオ。ヤヨイとの別れ……

キョウコの死。そして後を追うように死を決意するスミオ。置き去りにされるリョウは!?

ダイナー前に１台のバイク、そして男と女がそこにいた。
「……行くの？　どうしても？」
ヤヨイには死を決意しているスミオのことはすべてわかっていた。
「スミオ……、行かないで……」
しかし、ヤヨイの制止もスミオの気持ちを変えることはなかった。
「リョウを頼むよ、サヨナラ……」
そう言って、スミオのバイクはヤヨイの元を去って行くのだった……。

SCENE 6

キミカが見たスミオの幻。ミカの身に危険が迫る！

　ミカたちが乗るアルファロメオはグングン加速していく。そのとき、接近してくる光がキミカの目に入った。キミカはスズキに向かって叫ぶ。
「止まりなさい！　聞こえないの！」
　車は光を通過してようやく止まった。車を降りるキミカとミカ。だが、キミカの様子がおかしい。
「ひき殺したの？　死んじゃったの、スミオ……。あたしが、あたしが殺すはずだったのに……！」
　キミカの言葉の意味がわからないミカ。ふたりは再び車を走らせる。
　だがキミカは、命令に背き停車させなかったスズキを車外に蹴り落とす。
「キミカ、止めて……！」
　あまりの出来事に失神するミカ。キミカの死のドライブが始まった!!

SCENE 7

リョウ、ヤヨイとの接触。ヤヨイの口から語られる真実

　スミオを探し、峠を爆走するリョウのバイク。その進路を塞ぐように立つ女の姿があった。
「何者だ、あんた……」
「そういえば自己紹介がまだだったわね。名乗るほどのものじゃないけど、逸島ヤヨイ……」
　リョウたちのことはスミオから聞いているらしい。そして、ヤヨイはスミオを静かに死なせろと言う。
「知ってた？　キョウコさん、あなたのこと愛していたの……。両想いよ、姉弟で……。まるで変態ね」
　ヤヨイの口から語られる衝撃の事実。しかし、リョウの運命は、さらに波乱に満ちていると語る。そう告げてヤヨイは去って行った。
　リョウも再びバイクを走らせる。

SCENE 8

ミカに姉をダブらせるリョウ、暴走する車を追う!

錯乱するキミカは車を暴走させる。このときミカは後部座席で気絶していた

　リョウは暴走する1台の車に接近する。そして後ろの座席にキョウコの姿を見る。それは気絶したミカだった。
「キョウコ!?　どうして？」
　暴走する車を追うリョウ。だが車は一向に速度を落とさない。そしてリョウの目の前に少年の姿が!?　急ブレーキで停止するバイク。だが、ミカを乗せた車はガードレールに激突した！
　無惨に横たわるキミカの遺体。後部座席のミカも、すでに死んでいた。

SCENE 9

ミカ死亡……!!
リョウとミトラの契約

ミカの遺体を前に愕然とするリョウ。そして白髪の少年が闇から現れた。
「……キョウコじゃないよ。その子は」
リョウに語り始める少年。リョウ、そしてキョウコのことを知りすぎている少年……。少年の言葉にリョウは動揺を隠せない。
「……キョウコを!? おまえがキョウコを。……殺したのか、おまえが……」
逆上するリョウ。しかし少年はこう言うのだった。
「キョウコがいないからこのお姉ちゃんにするんだ……。でも、死んでいるだろ？ 助けてあげてもいいよ。そのかわり、リョウが抱きしめた人をぼくがもらうからね？ 約束だよ」
こうしてリョウは少年との契約をかわし、ミカを蘇生させるのだった。

没エピソード「陰約」から 本編の謎に迫る！

MYSTERY 1 キョウコの死、その理由は……

本編では語られることのないキョウコの死。だがこの「陰約」から「キョウコ自らが死を選んだ」ことが読み取れる。そして、ミカの場合と同様、少年はキョウコを蘇生させようとしたはず。これを拒んだのはキョウコの意志なのだろうか？

MYSTERY 2 ミトラやリョウがミカに執着する理由

少年は当初、何らかの理由でキョウコに執着していた。しかしキョウコの自殺により、身代わりを求める。そこで選ばれたのがミカであった。
そしてリョウと交わす契約。すべては少年が仕組んだことのように思える。

MYSTERY 3 キョウコ、リョウ、スミオ、ルミ、この四角関係の真相

キョウコとリョウ、スミオとルミは言わば、近親相姦の関係にあった。だが、お互いをかばうあまりキョウコとスミオ、リョウとルミという関係が出来上がったのである。しかし、キョウコの死によりこの関係も破綻。スミオも死を選んだ。

編集・構成／竹中 清・坂田 茂・竹部晴信（STUDIO HARD TEAM3）
本文／坂田 茂・竹部晴信
本文デザイン／三樹由紀子・中尾 公（STUDIO HARD SOMKA）
カバーデザイン／田村 宏
協力／ヒューマン株式会社
担当編集／川崎 彩

プレイステーション必勝法スペシャル

ムーンライトシンドローム

発 行 人 加納 将光
編 集 人 吉田 陽一
発 行 所 株式会社 勁文社
〒164 東京都中野区本町3丁目32番15号
☎03-3372-3281（編集）・03-3372-3291（営業） 振替 00190-8-13311番
写植・版下 有限会社 ティー・エー・ティー
印 刷 所 株式会社 ノア
製 本 所 明興製本工業株式会社

落丁、乱丁本は、当社にておとりかえいたします。
発行日、定価は、カバーに表示してあります。

ISBN4-7669-2849-0 C0076

なんか落ち着きないね？
……見て、空
雲がすごく大きくて
吸いこまれそう
…… りなよ
瞬間がずっと続けばいいのに

まだこんなに元気……短い
だけど、可哀想だって言うの 対
わたしたちにはセミの気持 したって理解できるものじゃないから
から……
けないんだよ
ただ、眺めているだけ……

……安心して、わたしが最後まで見ているから
あなたが魂の亡骸になるまで
になって
そしてわたしはキスをするの
素敵な最後でし
わたしにはリョウがいるから……

ISBN4-7669-2849-0

C0076 ¥950E

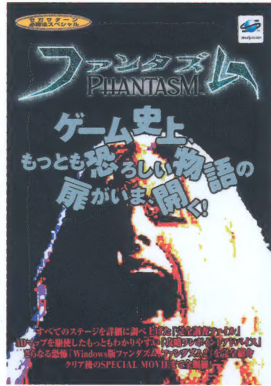
9784766928495

1920076009501

●定価:本体950円+税

なんか落ち着きないね?
……見て、空
雲がすごく大きくて
吸いこまれそう
……
この瞬間がずっと続けばいいのに

……安心して、わたしが最後まで見ているから
あなたが魂の亡骸になるま
なって
そしてわたしはキスをするの
素敵な最後でし
わたしにはリョウがいるから……

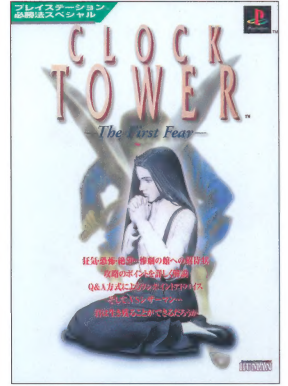
好評発売中

セガサターン必勝法スペシャル
ファンタズム
A5判　1100円(税抜き)

株式会社 勁文社 発行 平成 9年11月1日 初版

ISBN4-7669-2849-0
C0076 ¥950E

●定価:本体950円+税

プレイステーション必勝法スペシャル
ムーンライトシンドローム
ケイブンシャ

好評発売中

プレイステーション必勝法スペシャル
CLOCK TOWER The First Fear
A5判　950円(税抜き)